

1万人女性意識調査

少子化を背景とした女性の子育て意識

2023年5月

目次

調査概要	3
回答者プロフィール	4
各論(原則、各設問全体値＋年代別など詳細編の2ページで構成)	
【全員】 理想の子どもの人数	5
【全員】 親はいつまで子どもの成長に責任を持つべきか	7
【全員】 少子化社会の進行による影響	9
【全員】 子どもの将来を鑑みた際の日本社会への不安	11
【全員】 国・自治体・企業に求める少子化対策	13
【全員】 子ども関連予算を増やすべきか	15
【全員】 子ども関連予算の財源	17
【全員】 政府の対策が少子化の解消に効果があると思うか	19
【全員】 こども家庭庁に期待すること	21
【全員】 子育てしやすい社会に向けて国や自治体の制度・支援	23
【全員】 婚外子の権利を認めることが日本の出生率上昇につながるか	25
【全員】 婚外子・非嫡出子の権利を認めるべきか	27
【子どもがいる方】 子どもがいて良かったと思うこと	29
【子どもがいる方】 子育てにおいて大変だと思うこと	31
【子どもがいる方】 家族・地域コミュニティに求める子育ての役割	33
【子どもがいない方】 子どもを望むかどうか	35
【子どもがいない方】 子どもを望む理由	37
【子どもがいない方】 子どもを望まない理由	39

調査概要

- 調査対象 全国の18～69歳女性
- 調査手法 インターネット調査
- 調査期間 2023年3月20日(月)～2023年3月22日(水)
- 回収数 全国を6エリアに分け、エリア毎に年代別人口構成比に合わせて割付・回収。

	18～29歳	30代	40代	50代	60代	合計
北海道・東北	171	183	243	240	274	1,111
首都圏	667	634	827	739	637	3,504
中部	300	297	407	379	377	1,760
近畿	304	279	386	358	321	1,648
中国・四国	135	140	192	176	196	839
九州・沖縄	190	201	249	233	265	1,138
合計	1,767	1,734	2,304	2,125	2,070	10,000

※エリア内訳

北海道・東北	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県		
首都圏	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	山梨県	
中部	新潟県	富山県	石川県	福井県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
近畿	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県			
中国・四国	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県
九州・沖縄	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	

回答者プロフィール

◎年代 (N=10,000)

	18～29歳	30代	40代	50代	60代
回答者数	1,767	1,734	2,304	2,125	2,070
構成比 (%)	17.7	17.3	23.0	21.3	20.7

◎エリア別 (N=10,000)

	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
回答者数	1,111	3,504	1,760	1,648	839	1,138
構成比 (%)	11.1	35.0	17.6	16.5	8.4	11.4

◎職業 (N=10,000)

	お勤め		個人経営 の経営主	自由・ 自営業	主婦	学生	無職	その他	有職者
	経営者・正社 員・正職員・ 嘱託職員など	派遣社員・ パート・ アルバイト							
回答者数	2,901	2,695	103	312	2,658	302	927	102	6,011
構成比 (%)	29.0	27.0	1.0	3.1	26.6	3.0	9.3	1.0	60.1

◎未既婚・子ども有無 (N=10,000)

	未婚		既婚 (事実婚含む)		離死別		子ども なし	子ども あり	未婚者	既婚者	離・死別
	子ども なし	子ども あり	子ども なし	子ども あり	子ども なし	子ども あり					
回答者数	3,385	98	1,426	4,169	229	693	5,040	4,960	3,483	5,595	922
構成比 (%)	33.9	1.0	14.3	41.7	2.3	6.9	50.4	49.6	34.8	56.0	9.2

◎子どもの人数 (n=4,960)

	1人	2人	3人	4人以上
回答者数	1,799	2,403	659	99
構成比 (%)	36.3	48.4	13.3	2.0

◎同居家族 (N=10,000)

	なし (一人暮らし)	配偶者・ パートナー	子ども						孫	自分の親	義理の親	その他の 親族・家族	友人・ 知人等 親族以外
			未就学児	小学生	中学生・ 高校生	大学生・ 専門学校生・ 大学院生	社会人	その他					
回答者数	1,822	5,548	1,011	858	819	443	1,086	42	44	2,209	184	707	54
構成比 (%)	18.2	55.5	10.1	8.6	8.2	4.4	10.9	0.4	0.4	22.1	1.8	7.1	0.5

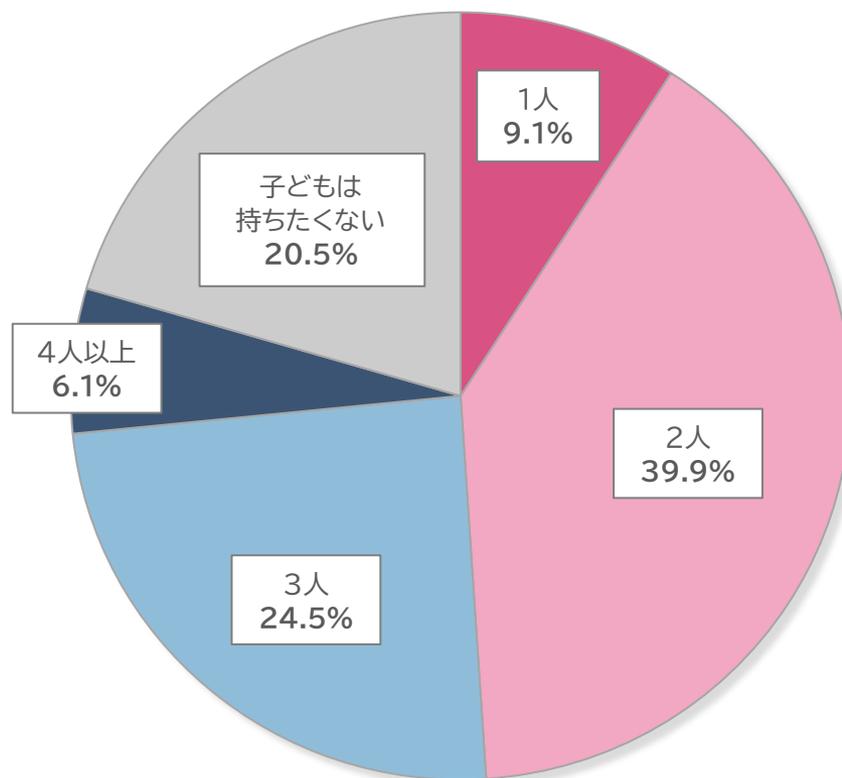
◎世帯年収 (N=10,000)

	300万円 未満	300～ 500万円 未満	500～ 800万円 未満	800～ 1000万円 未満	1000～ 1500万円 未満	1500～ 2000万円 未満	2000万円 以上	分から ない・答え たくない
回答者数	2,046	1,899	1,733	712	487	122	93	2,908
構成比 (%)	20.5	19.0	17.3	7.1	4.9	1.2	0.9	29.1

【全員】理想の子ども的人数①

理想の子ども的人数としては「2人」が40%と多く、次いで「3人」が25%。「子どもは持ちたくない」は20%にのぼる。

Q.仮に何の制約もなく、自由に子どもを持つことができるとしたら、理想の子ども数は何人ですか。

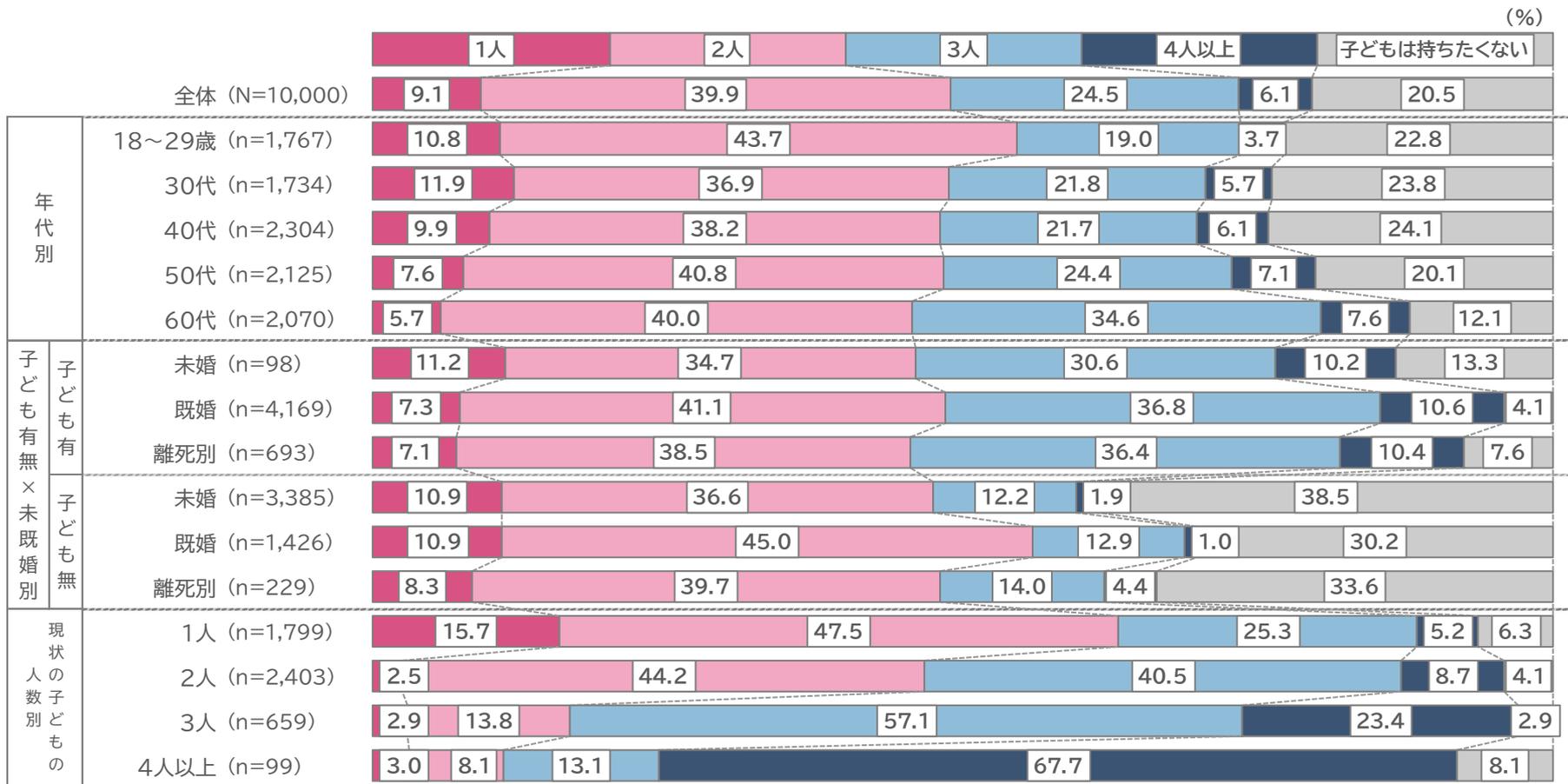


(N=10,000)

【全員】理想の子ども的人数②

年代別でみると、若年齢層ほど「2人」以下が多数を占めるが、50代以上になると、「3人」「4人以上」も3~4割強と高い。子ども有層では「2人」と「3人」がともに3割以上を占めるが、子ども無層では「2人」が多く、「子どもは持ちたくない」も3割以上。現状の子ども的人数別でみると、2人以上の各層では現状と同じ人数が最多で、一致している。

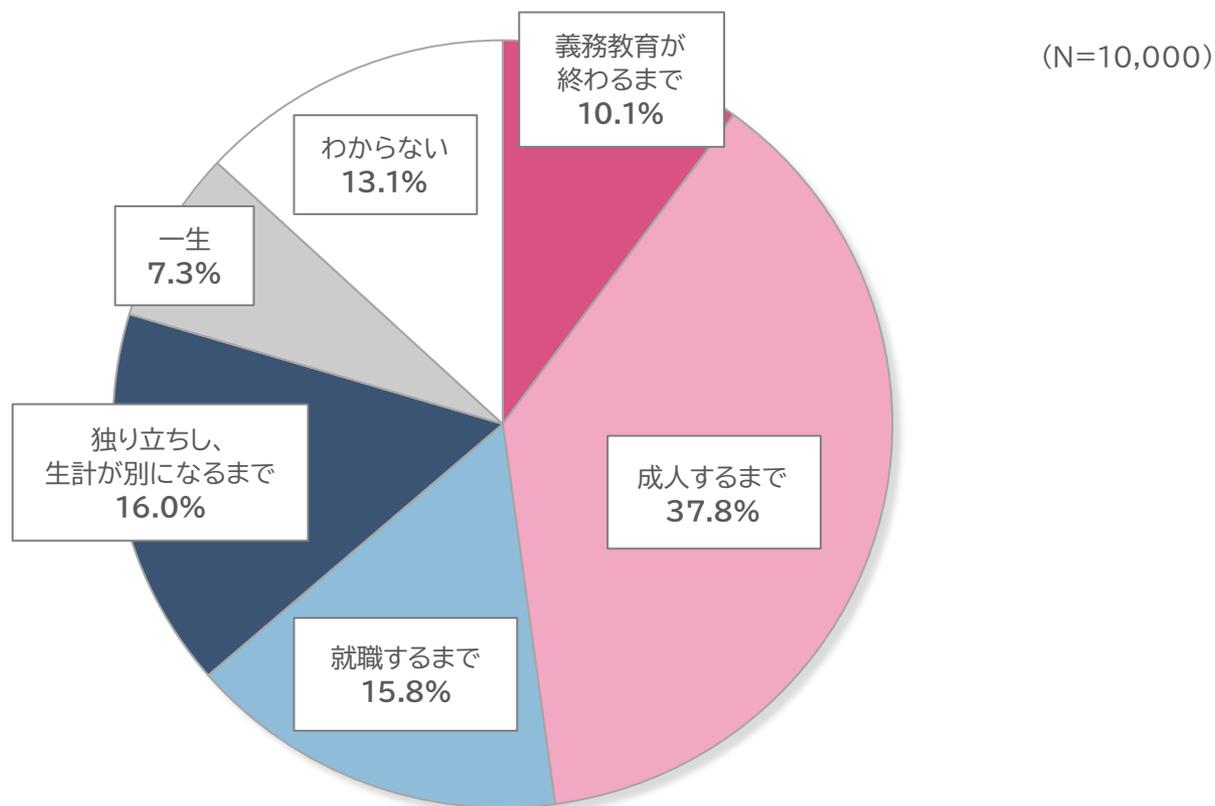
Q.仮に何の制約もなく、自由に子どもを持つことができるとしたら、理想の子ども数は何人ですか。



【全員】 親はいつまで子どもの成長に責任を持つべきか①

親が責任を持つべきと考える成長段階としては、「成人するまで」(38%)が最多。次いで多いのは、「独り立ちし、生計が別になるまで」や「就職するまで」で、ともに16%となっている。

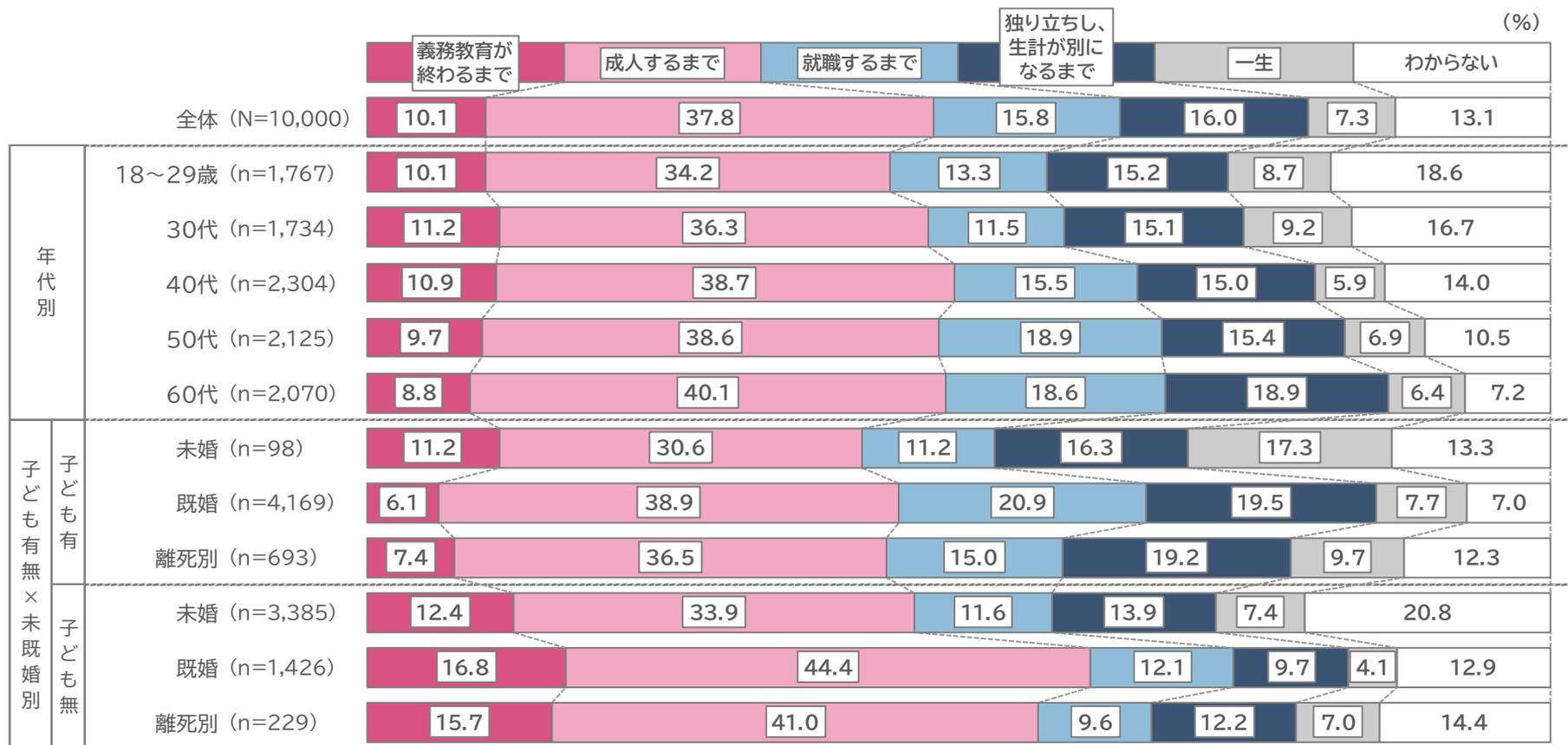
Q.あなたは、親はいつまで子どもの成長に責任を持つべきだと思いますか。



【全員】 親はいつまで子どもの成長に責任を持つべきか②

年代別で見ると、「就職するまで」「独り立ちし、生計が別になるまで」は50代以上で合わせて35%前後と高い。子ども有層では子ども無層に比べて「就職するまで」「独り立ちし、生計が別になるまで」「一生」の回答が多くみられる。

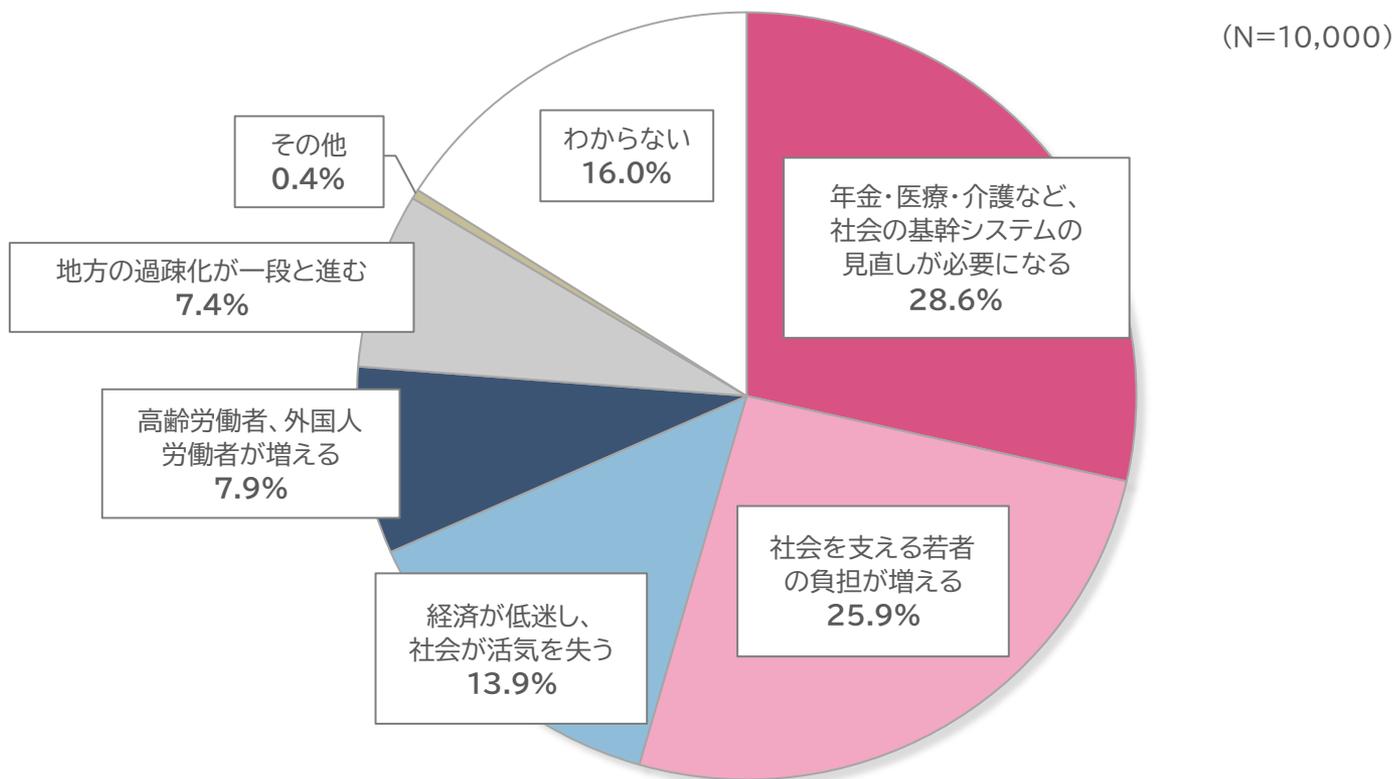
Q.あなたは、親はいつまで子どもの成長に責任を持つべきだと思いますか。



【全員】 少子化社会の進行による影響①

少子化進行による社会の変化についてみると、「年金・医療・介護など、社会の基幹システムの見直しが必要になる」(29%)、「社会を支える若者の負担が増える」(26%)が多くあげられ、この2項目で5割を超える。次いで「経済が低迷し、社会が活気を失う」(14%)。

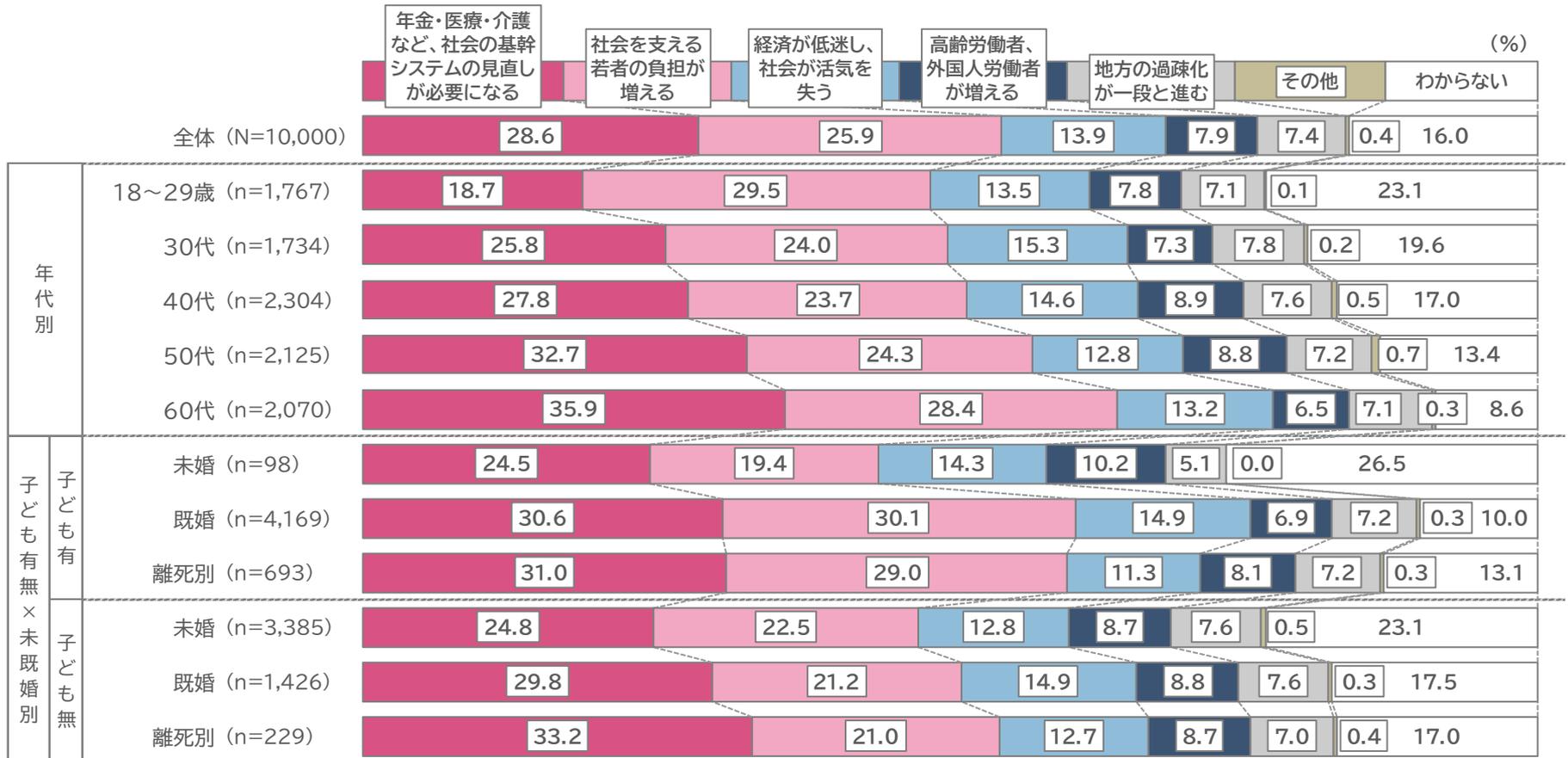
Q.あなたは、少子化の進行で社会はどう変わるとお思いますか。もっとも影響の大きいと思うものを1つお選びください。



【全員】 少子化社会の進行による影響②

年代別でみると、上位2項目は高年齢層ほど高くなる傾向がみられるが、「社会を支える若者の負担が増える」は18～29歳でも高い。子ども有層では既婚層、離死別層ともに上位2項目が各3割を占める。子ども無層の既婚層、離死別層は子ども有層に比べて「わからない」の回答がやや多い。

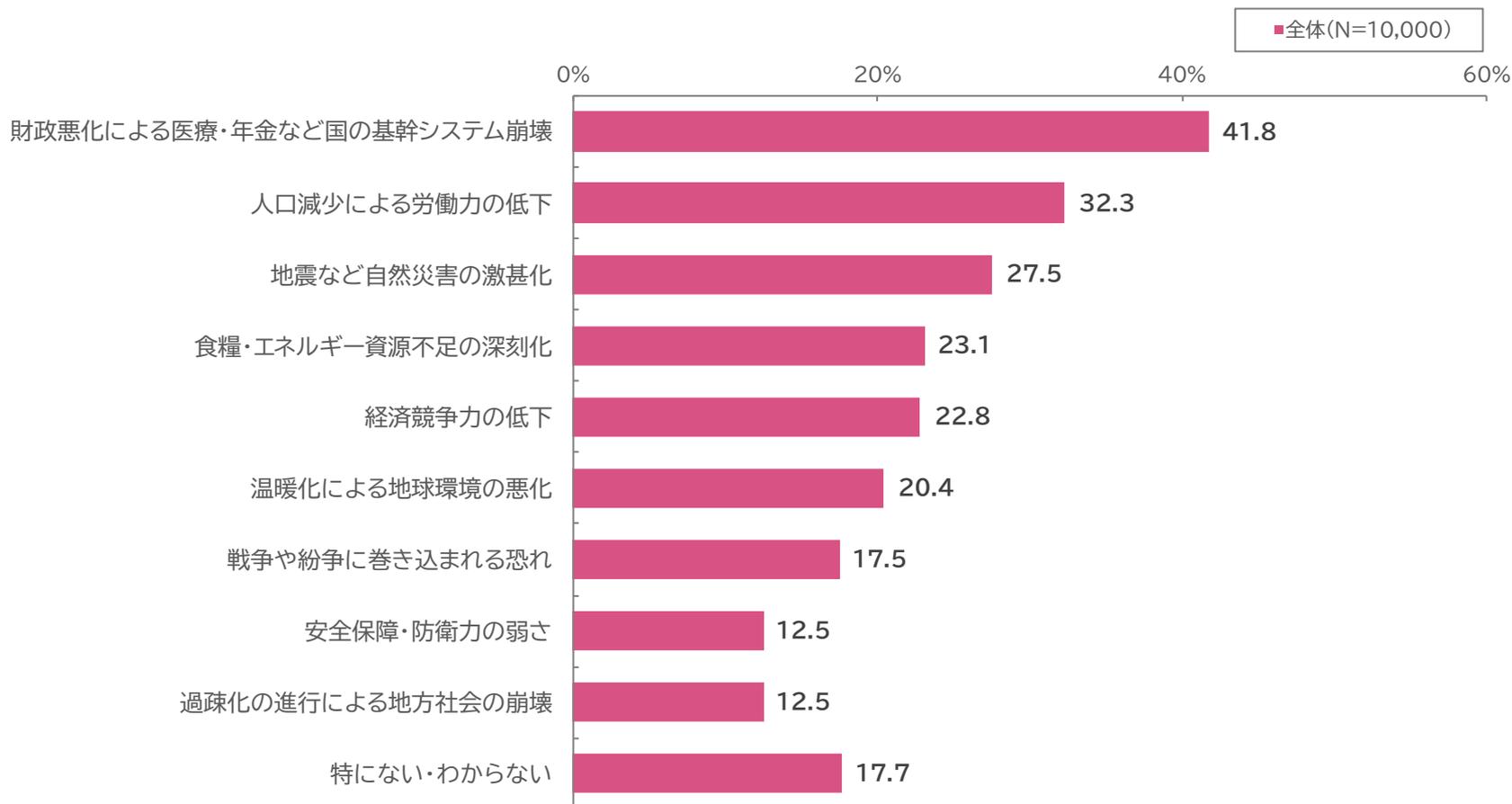
Q.あなたは、少子化の進行で社会はどう変わるとお考えですか。もっとも影響の大きいと思うものを1つお選びください。



【全員】子どもの将来を鑑みた際の日本社会への不安①

日本の社会についての不安をみると、「財政悪化による医療・年金など国の基幹システム崩壊」(42%)が最多。次いで「人口減少による労働力の低下」(32%)、「地震など自然災害の激甚化」(28%)が3割前後。このほか、「食糧・エネルギー資源不足の深刻化」、「経済競争力の低下」、「温暖化による地球環境の悪化」が2割以上となっている。

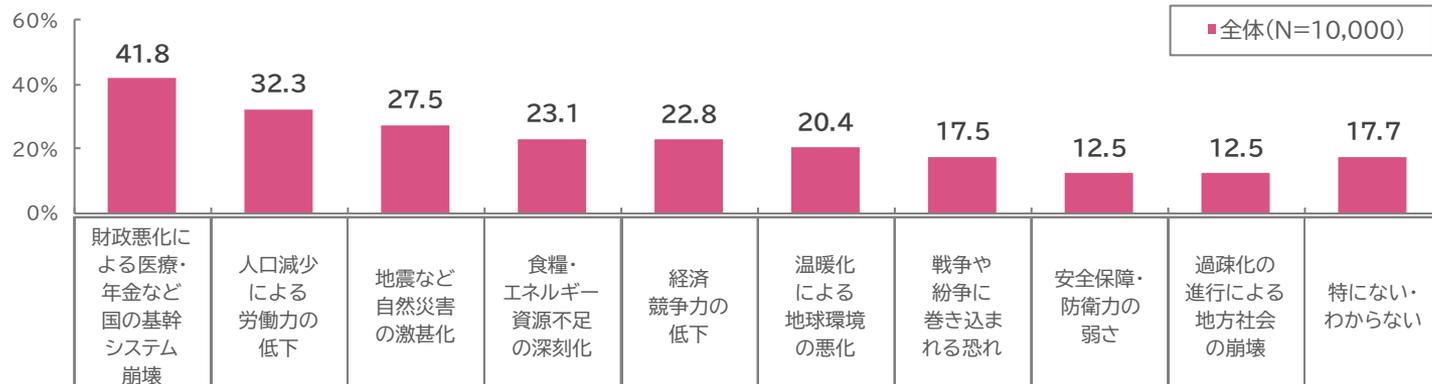
Q.子どもの将来を考える上で、あなたは日本社会にどんな不安を持ちますか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



【全員】子どもの将来を鑑みた際の日本社会への不安②

年代別でみると、「財政悪化による医療・年金など国の基幹システム崩壊」と「温暖化による地球環境の悪化」は高年齢層ほど高い傾向が顕著となっている。60代は全般に各項目のスコアが高く、「特にない・わからない」も1割を下回るなど、日本社会への不安が他の年代よりも強く表れている。

Q.子どもの将来を考える上で、あなたは日本社会にどんな不安を持ちますか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



		全体 (N=10,000)	41.8	32.3	27.5	23.1	22.8	20.4	17.5	12.5	12.5	17.7	(%)
年代別	18~29歳 (n=1,767)	32.6	29.4	20.8	18.1	22.7	13.5	16.2	10.3	11.7	26.8		
	30代 (n=1,734)	37.8	31.0	24.5	20.6	22.4	16.7	16.7	12.2	12.6	22.3		
	40代 (n=2,304)	41.0	32.4	28.2	24.8	23.9	19.0	15.6	11.9	11.3	18.5		
	50代 (n=2,125)	45.0	33.4	30.0	24.2	22.5	23.5	17.0	13.1	12.3	14.3		
	60代 (n=2,070)	50.3	34.7	32.4	26.2	22.5	27.9	21.6	14.6	14.8	8.7		
子ども有無×未既婚別	子ども有												
	未婚 (n=98)	30.6	24.5	26.5	23.5	20.4	16.3	18.4	11.2	7.1	24.5		
	既婚 (n=4,169)	46.2	34.3	31.9	25.4	23.3	24.0	20.4	13.9	12.0	10.7		
	離死別 (n=693)	45.6	30.6	31.6	24.8	20.6	24.1	19.6	12.8	11.0	15.7		
	子ども無												
	未婚 (n=3,385)	36.0	30.5	23.2	19.7	22.3	16.0	14.8	11.1	13.3	25.9		
既婚 (n=1,426)	41.3	31.7	23.9	23.1	24.2	19.3	14.7	12.1	12.9	19.1			
離死別 (n=229)	41.9	35.8	21.4	23.6	22.7	19.2	14.0	8.7	16.6	18.8			

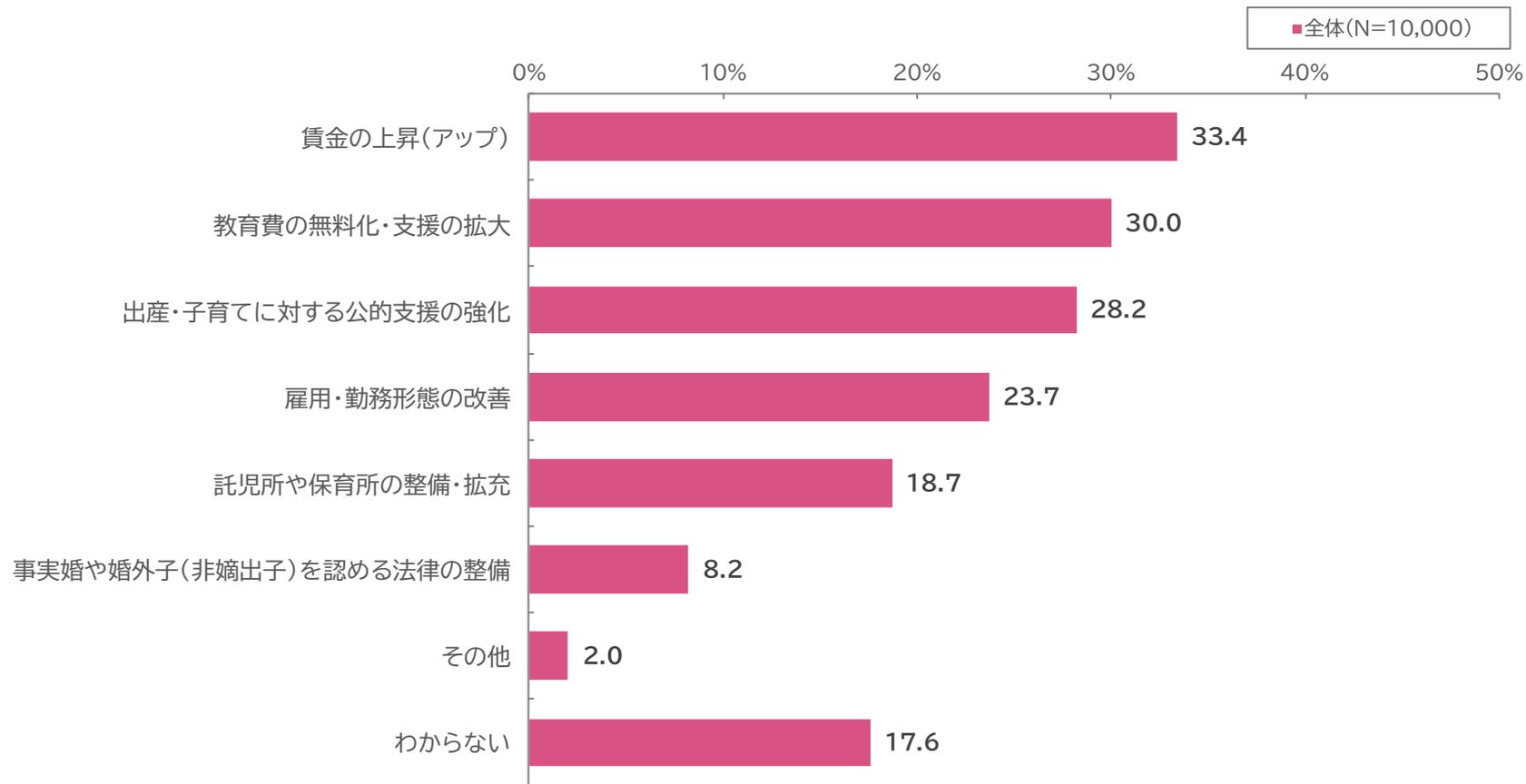
■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】 国・自治体・企業に求める少子化対策①

少子化解消のための対策としては「賃金の上昇(アップ)」(33%)、「教育費の無料化・支援の拡大」(30%)、「出産・子育てに対する公的支援の強化」(28%)が上位3項目。「雇用・勤務形態の改善」「託児所や保育所の整備・拡充」は2割前後となっている。

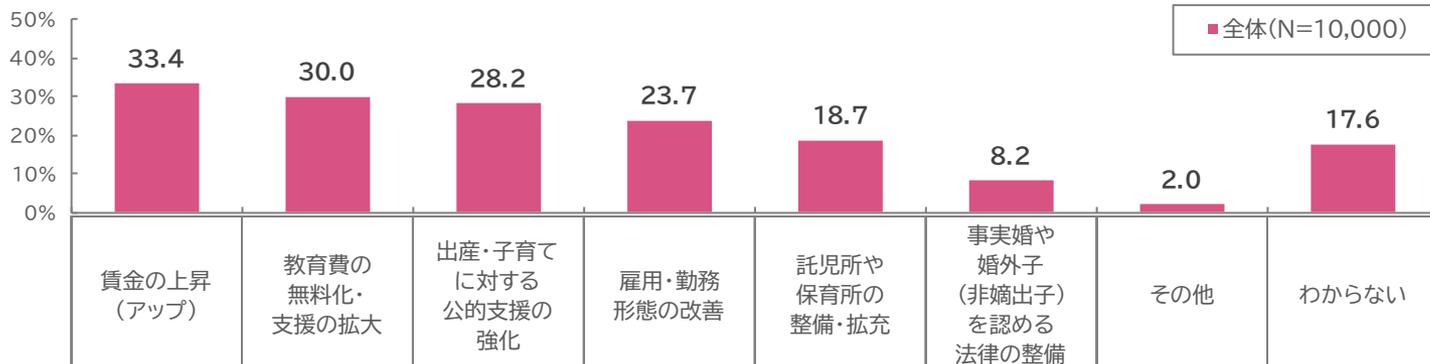
Q.あなたは、少子化解消のために国や自治体、企業にどのような対策を求めますか。お気持ちに近いものを2つまでお選びください。



【全員】国・自治体・企業に求める少子化対策②

年代別で見ると、「出産・子育てに対する公的支援の強化」は18～29歳で35%にのぼり、「賃金の上昇」とともに高い。「雇用・勤務形態の改善」と「託児所や保育所の整備・拡充」は高齢層ほど高い傾向がみられ、60代ではともに3割にのぼる。子ども有層の既婚層、離死別層では「教育費の無料化・支援の拡大」が他層に比べて高い。

Q.あなたは、少子化解消のために国や自治体、企業にどのような対策を求めますか。お気持ちに近いものを2つまでお選びください。



		全体 (N=10,000)	賃金の上昇 (アップ)	教育費の無料化・支援の拡大	出産・子育てに対する公的支援の強化	雇用・勤務形態の改善	託児所や保育所の整備・拡充	事実婚や婚外子(非嫡出子)を認める法律の整備	その他	わからない	(%)
年代別	18～29歳 (n=1,767)	38.0	38.0	28.6	34.7	15.1	13.3	5.8	0.8	22.1	
	30代 (n=1,734)	37.7	37.7	31.9	30.3	19.6	14.9	6.8	1.7	19.0	
	40代 (n=2,304)	36.1	36.1	30.9	23.2	24.3	13.5	8.5	2.6	19.7	
	50代 (n=2,125)	32.6	32.6	28.2	22.4	26.9	20.2	10.1	2.9	16.8	
	60代 (n=2,070)	23.7	23.7	30.5	32.5	30.3	30.7	9.1	1.6	11.2	
子ども有無×未既婚別	子ども有	未婚 (n=98)	28.6	33.7	16.3	19.4	11.2	10.2	3.1	24.5	
	既婚 (n=4,169)	32.8	40.2	31.5	24.5	21.8	6.3	1.8	10.4		
	離死別 (n=693)	28.9	36.8	26.3	23.4	22.4	7.6	2.3	14.4		
	子ども無	未婚 (n=3,385)	34.9	20.2	25.7	22.5	15.3	9.9	1.9	25.3	
	既婚 (n=1,426)	34.2	21.8	27.3	24.5	16.7	9.0	2.5	20.8		
	離死別 (n=229)	34.1	17.9	22.7	23.6	17.9	12.7	1.7	21.4		

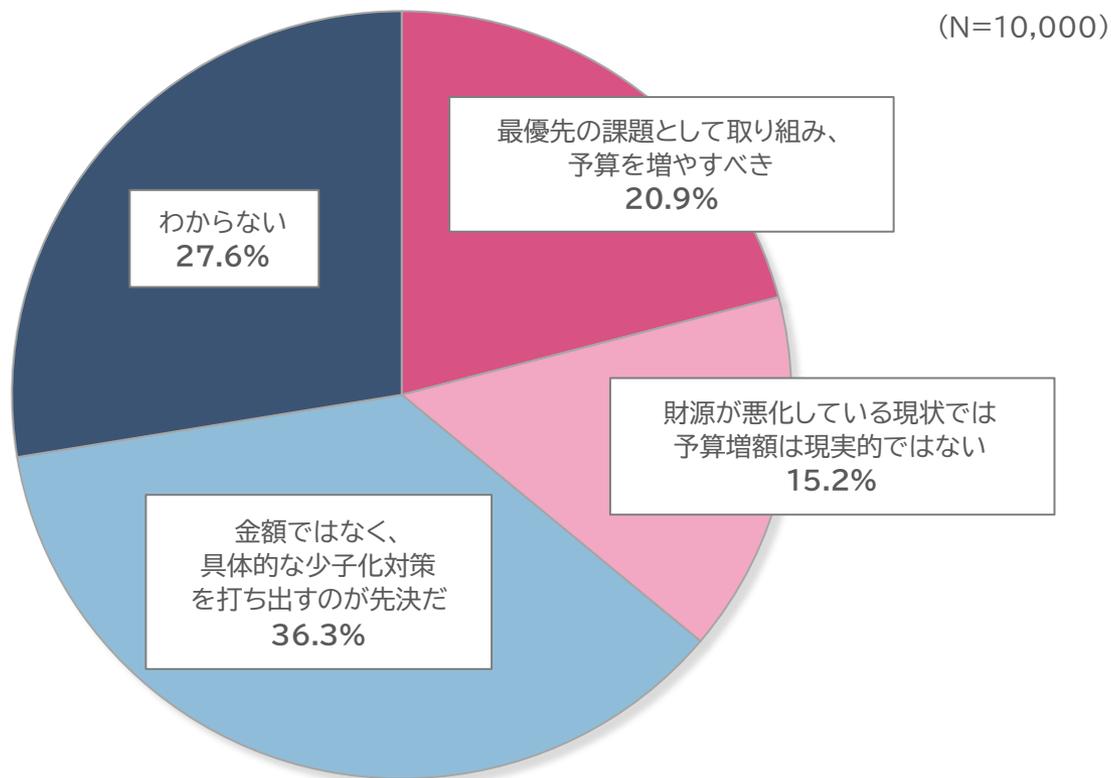
■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】子ども関連予算を増やすべきか①

子ども関連予算については、「金額ではなく、具体的な少子化対策を打ち出すのが先決だ」(36%)が最多となった。「最優先の課題として取り組み、予算を増やすべき」(21%)や「財源が悪化している現状では予算増額は現実的ではない」(15%)も2割程度みられるが、「わからない」(28%)も3割近くを占め、回答は分散している。

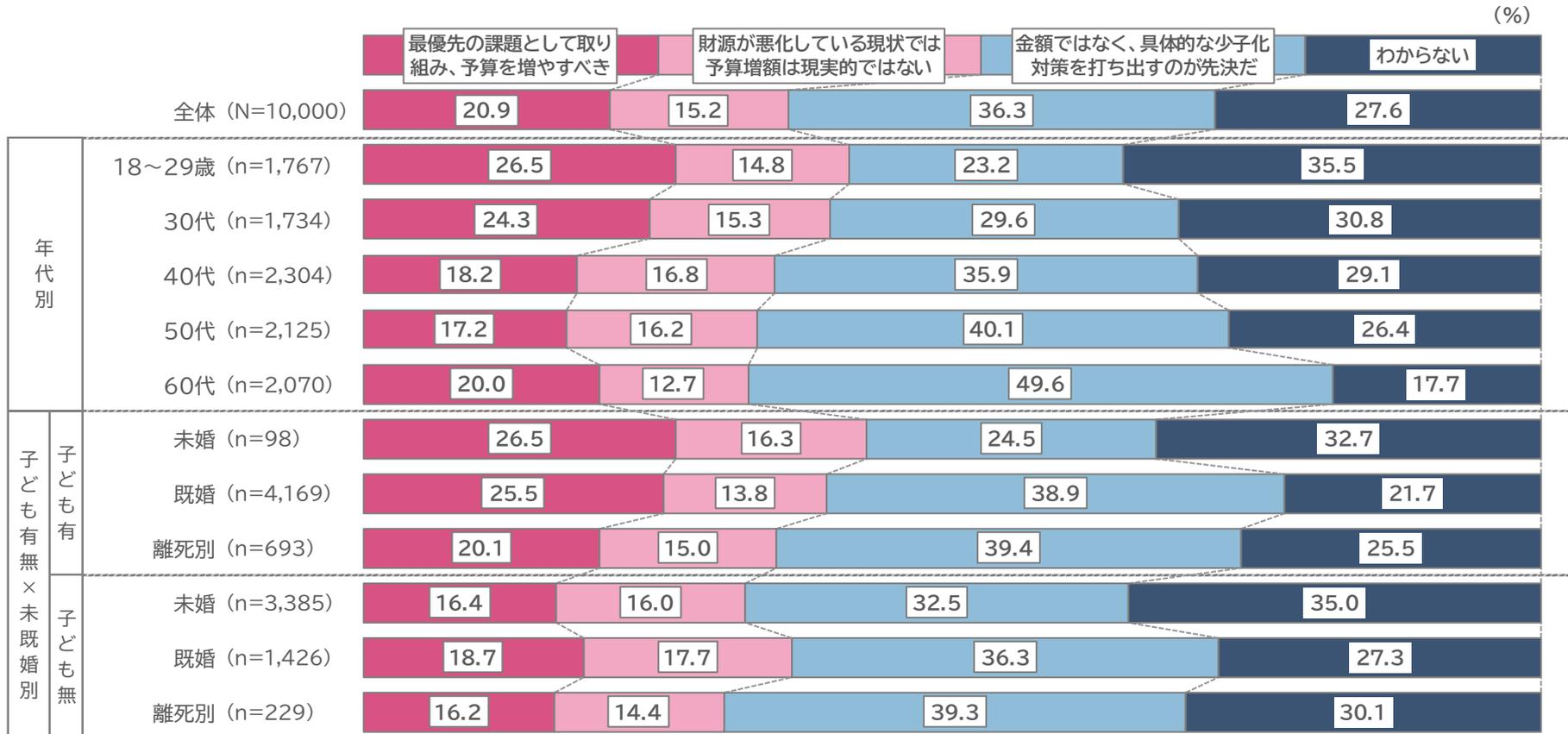
Q.政府は「次元が異なる少子化対策」を打ち出し、子ども対策予算を大幅に増やす方針を打ち出しています。
あなたは、子ども関連予算を増やすべきだと思いますか。一番お気持ちに近いものを1つお選びください。



【全員】子ども関連予算を増やすべきか②

30代以下では「わからない」が3割以上と最多だが、「最優先の課題として取り組み、予算を増やすべき」も25%前後と、他の年代に比べて高い。50代以上では「金額ではなく、具体的な少子化対策を打ち出すのが先決だ」が4~5割を占める。未婚層は子どもの有無にかかわらず「わからない」が3割を超え、既婚層、離死別層では「金額ではなく、具体的な少子化対策を打ち出すのが先決だ」が約4割を占める。子ども有層ではいずれも「最優先の課題として取り組み、予算を増やすべき」が2割以上と高め。

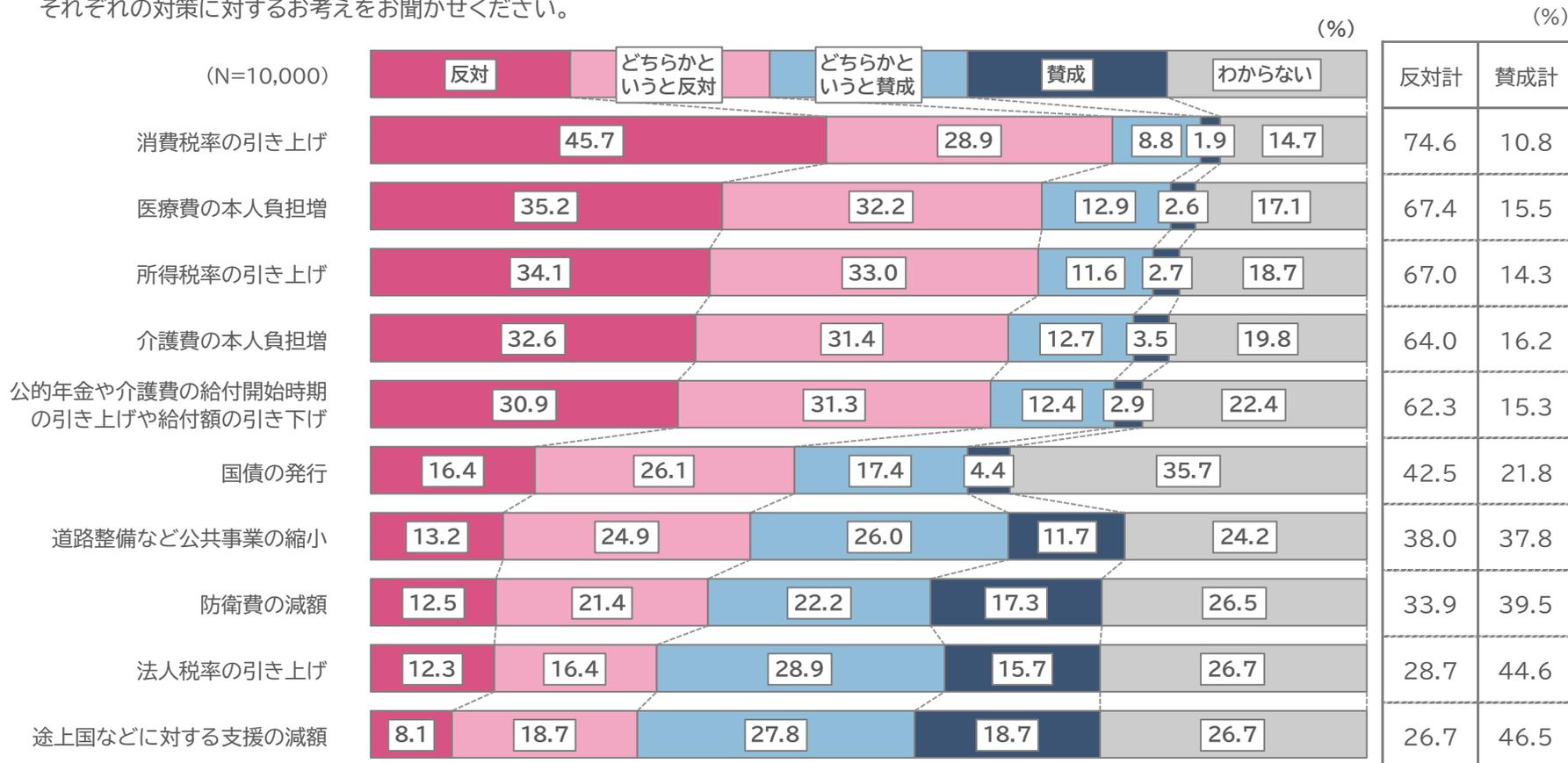
Q.政府は「次元が異なる少子化対策」を打ち出し、子ども対策予算を大幅に増やす方針を打ち出しています。
あなたは、子ども関連予算を増やすべきだと思いますか。一番お気持ちに近いものを1つお選びください。



【全員】子ども関連予算の財源①

財源の確保についてみると、「消費税率の引き上げ」、「医療費の本人負担増」、「所得税率の引き上げ」は「反対計」が7割前後と高い。「途上国などに対する支援の減額」「法人税率の引き上げ」「防衛費の減額」は「賛成計」が4割以上となっており、「反対計」を上回る。

Q.「子ども関連予算」の増額のためには、どのような方法で財源を確保したら良いと思いますか。
それぞれの対策に対するお考えをお聞かせください。



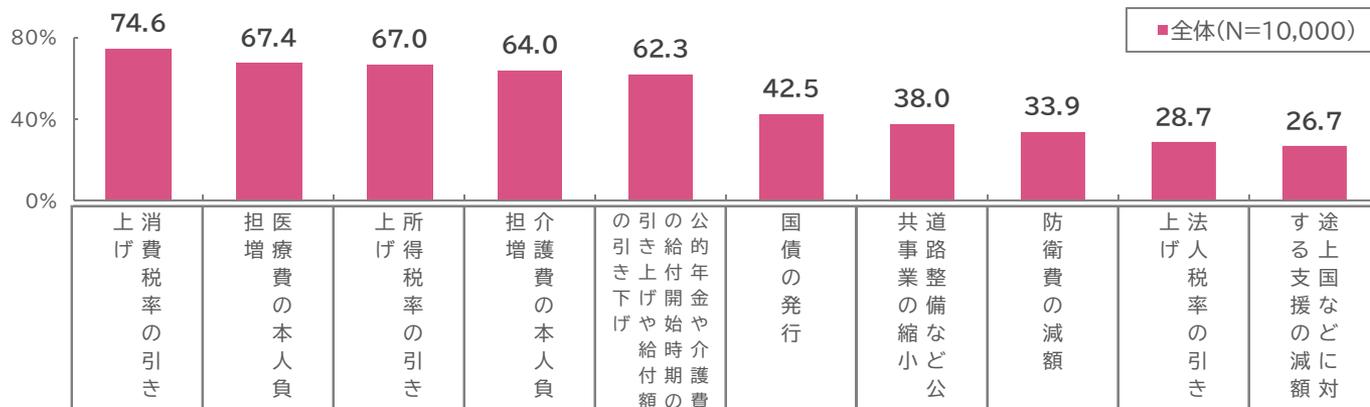
※反対計:「反対」「どちらかという反対」の合計
 ※賛成計:「賛成」「どちらかという賛成」の合計
 ※反対計のスコアの高い順に掲載

【全員】子ども関連予算の財源②

各財源案に反対している割合を年代別で見ると、「医療費の本人負担増」「介護費の本人負担増」「公的年金や介護費の給付開始時期の引き上げや給付額の引き下げ」に反対している割合は60代が多い。「道路整備など公共事業の縮小」「防衛費の減額」「法人税率の引き上げ」などは、30代以下で反対の割合が多い。

Q.「子ども関連予算」の増額のためには、どのような方法で財源を確保したら良いと思いますか。

それぞれの対策に対するお考えをお聞かせください。 ※反対計のスコアを掲載



※反対計のスコア

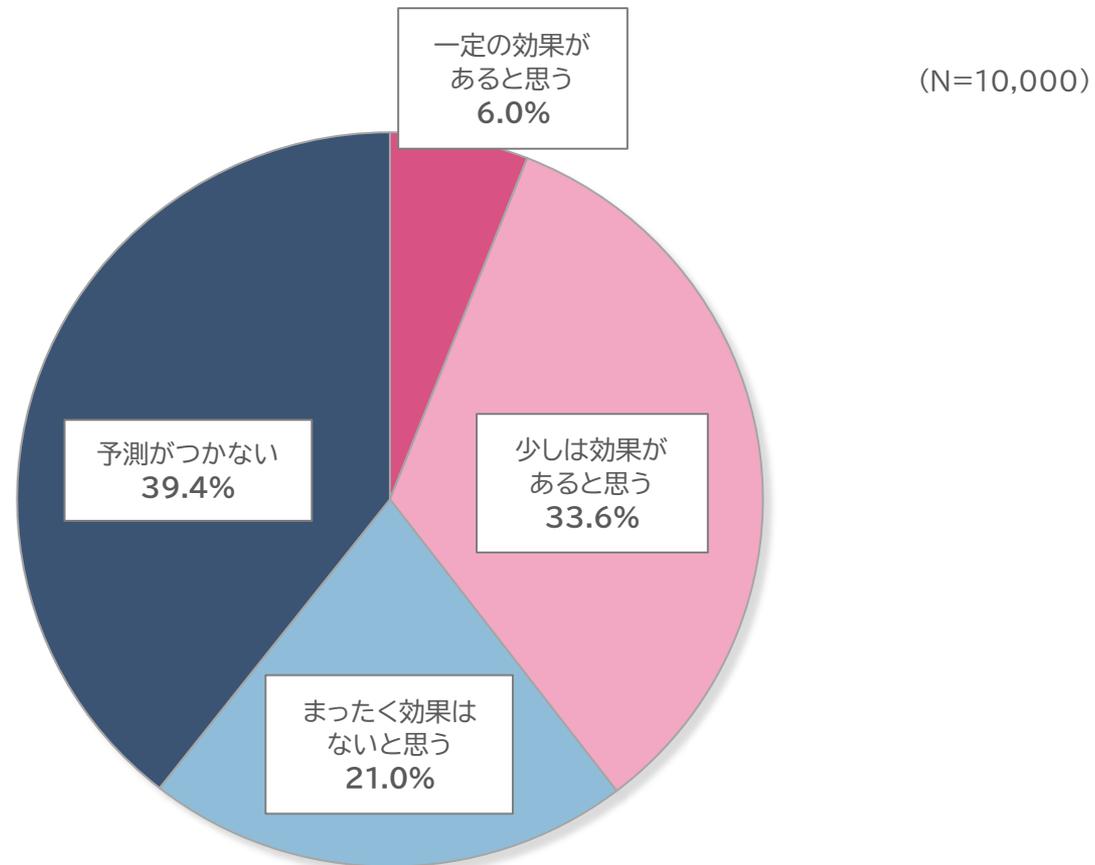
		全体 (N=10,000)	74.6	67.4	67.0	64.0	62.3	42.5	38.0	33.9	28.7	26.7	(%)
年代別	18~29歳 (n=1,767)		72.3	65.1	64.0	57.6	52.2	44.1	44.3	37.8	40.0	32.7	
	30代 (n=1,734)		73.2	64.8	66.0	59.8	56.9	42.0	42.0	39.7	35.9	30.5	
	40代 (n=2,304)		74.0	64.9	66.9	61.6	60.9	42.0	33.5	33.2	28.8	24.6	
	50代 (n=2,125)		76.0	68.4	69.7	67.8	66.4	40.6	35.0	29.6	24.0	23.8	
	60代 (n=2,070)		77.0	73.5	67.9	71.7	72.6	43.8	37.5	31.1	17.8	24.0	
子ども有無×未既婚別	子ども有	未婚 (n=98)	65.3	65.3	62.2	63.3	59.2	43.9	43.9	41.8	37.8	40.8	
		既婚 (n=4,169)	75.9	70.4	69.7	65.3	64.2	44.2	36.1	32.8	27.4	25.6	
		離死別 (n=693)	77.2	71.9	68.5	70.9	65.8	43.9	34.2	30.3	24.5	27.3	
	子ども無	未婚 (n=3,385)	72.2	63.6	63.0	60.1	57.6	40.3	39.9	34.7	31.3	28.0	
		既婚 (n=1,426)	75.5	65.1	68.2	64.7	64.7	41.4	40.5	36.5	27.8	26.2	
		離死別 (n=229)	77.7	71.6	68.6	72.1	70.3	45.0	40.2	34.1	28.4	23.1	

■ : 全体より+5ポイント以上 ■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】 政府の対策が少子化の解消に効果があると思うか①

政府の対策が少子化の解消に効果があるかをみると、「一定の効果があると思う」(6%)と「少しは効果があると思う」(34%)を合わせた「効果があると思う」は40%。しかし「予測がつかない」も39%と4割を占め、「まったく効果はないと思う」(21%)も2割を超えて、回答が分散している。

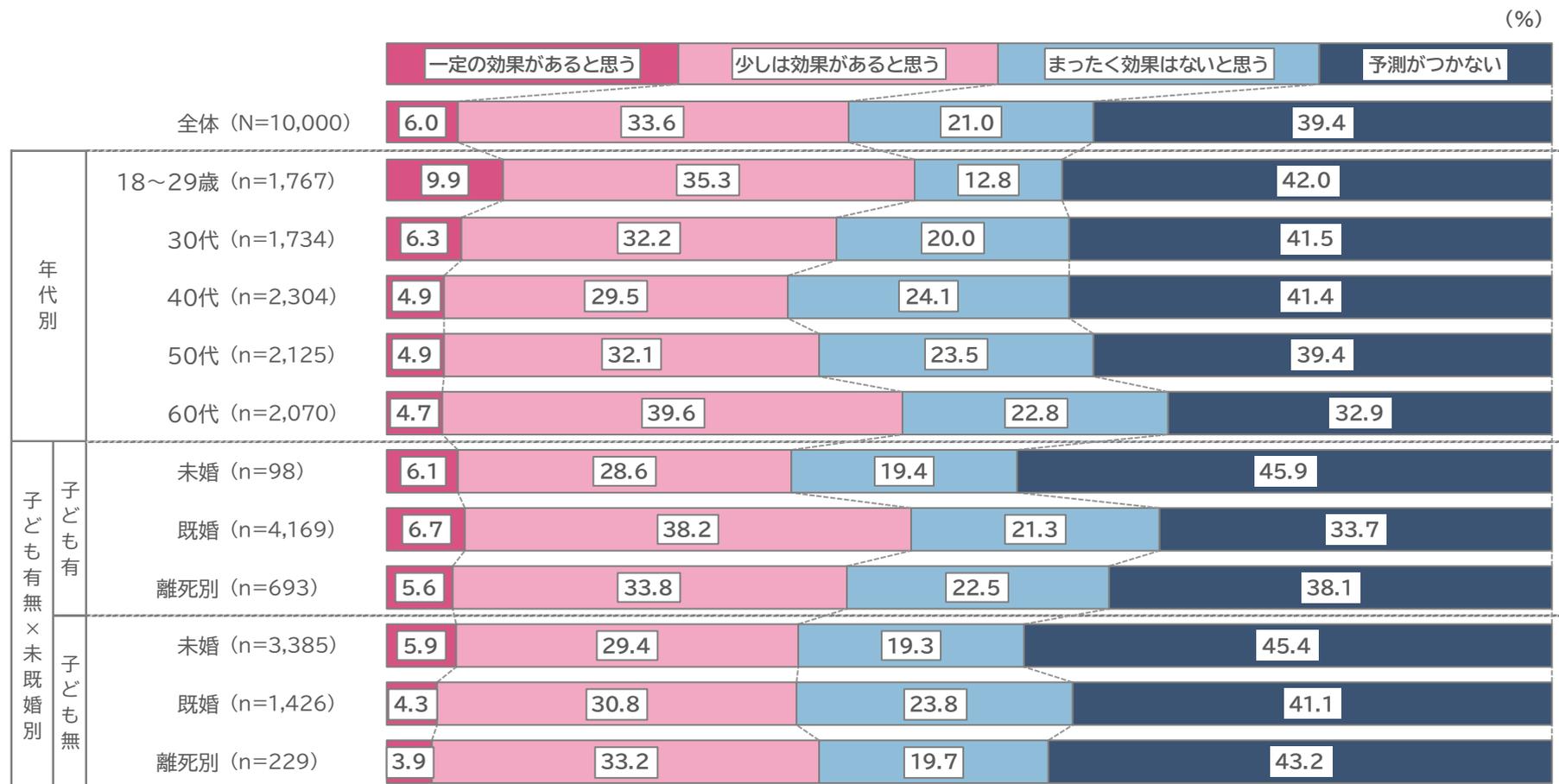
Q.あなたは、子ども対策予算の増加やこども家庭庁設置によって少子化の解消にどの程度効果があると思いますか。



【全員】 政府の対策が少子化の解消に効果があると思うか②

年代別でみると、18～29歳と60代で「一定の効果があると思う」「少しは効果があると思う」が合わせて4割強を占めるが、40代以下では「予測がつかない」が高く、4割を超える。子ども有層の未婚層や子ども無層では「一定の／少しは効果があると思う」は低めで、「予測がつかない」が4割強を占める。

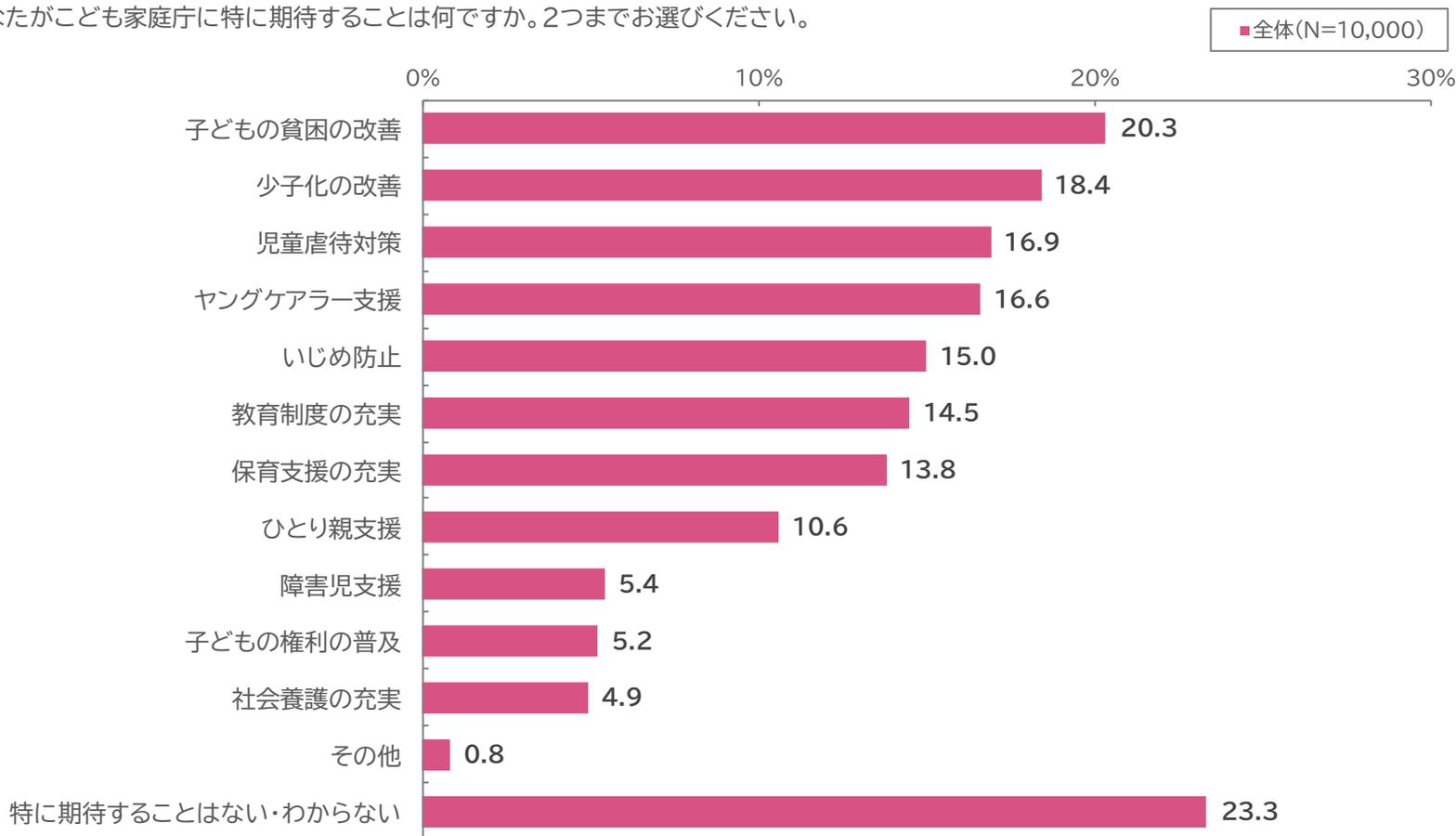
Q.あなたは、子ども対策予算の増加やこども家庭庁設置によって少子化の解消にどの程度効果があると思いますか。



【全員】 こども家庭庁に期待すること①

こども家庭庁に対する期待度をみると、「子どもの貧困の改善」、「少子化の改善」が2割前後で上位に並ぶ。しかし最も多い回答は「特に期待することはない・わからない」で、2割を超える。

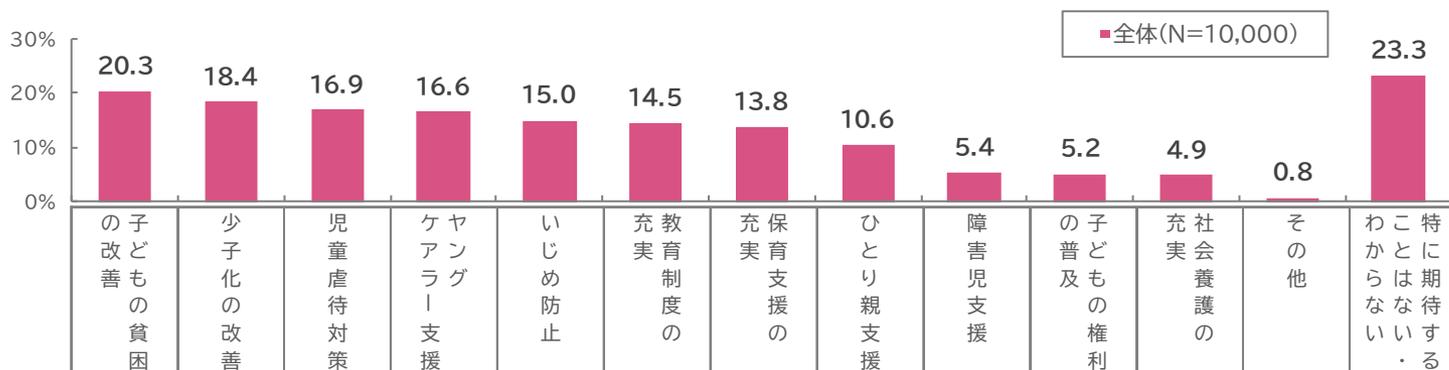
Q.2023年4月に、子ども政策全体を統括する司令塔として「こども家庭庁」が設置されます。
あなたがこども家庭庁に特に期待することは何ですか。2つまでお選びください。



【全員】 こども家庭庁に期待すること②

年代別でみると、「子どもの貧困の改善」「児童虐待対策」「ヤングケアラー支援」は高年齢層ほど高く、「ひとり親支援」は若年齢層ほど高い傾向。子ども有層では未婚層、離死別層で「ひとり親支援」が、既婚層では「教育制度の充実」がそれぞれ高い。子ども無層は「特に期待することはない・わからない」が3割前後にのぼる。

Q.2023年4月に、子ども政策全体を統括する司令塔として「こども家庭庁」が設置されます。
あなたがこども家庭庁に特に期待することは何ですか。2つまでお選びください。



		全体 (N=10,000)	20.3	18.4	16.9	16.6	15.0	14.5	13.8	10.6	5.4	5.2	4.9	0.8	23.3
			子どもの貧困の改善	少子化の改善	児童虐待対策	ヤングケアラー支援	いじめ防止	教育制度の充実	保育支援の充実	ひとり親支援	障害児支援	子どもの権利	社会養護の充実	その他	特別な期待しない
全体 (N=10,000)			20.3	18.4	16.9	16.6	15.0	14.5	13.8	10.6	5.4	5.2	4.9	0.8	23.3
年代別	18~29歳 (n=1,767)	15.4	16.0	13.7	11.3	14.6	14.1	17.6	13.4	4.3	5.4	3.7	0.2	28.8	
	30代 (n=1,734)	17.1	20.7	15.7	12.2	14.2	16.1	17.0	11.0	4.8	5.4	4.5	0.7	24.3	
	40代 (n=2,304)	20.1	17.0	15.9	16.7	15.0	17.2	8.8	10.2	6.5	5.2	5.6	0.8	24.4	
	50代 (n=2,125)	21.8	17.6	19.1	20.1	15.6	12.9	10.9	9.5	6.2	4.8	4.5	1.3	22.3	
	60代 (n=2,070)	25.8	20.7	19.6	21.0	15.4	11.9	16.5	9.3	4.8	5.2	5.7	0.8	17.6	
子ども有無×未既婚別	子ども有	未婚 (n=98)	19.4	9.2	20.4	15.3	13.3	10.2	9.2	31.6	6.1	5.1	3.1	1.0	21.4
	既婚 (n=4,169)	22.1	23.2	16.1	16.6	16.3	20.4	18.1	6.8	6.0	6.0	5.3	0.9	15.7	
	離死別 (n=693)	22.7	14.6	18.3	18.9	14.7	11.1	11.5	22.5	5.6	5.8	5.6	1.2	18.3	
	子ども無	未婚 (n=3,385)	18.1	14.1	17.3	15.6	14.4	9.9	10.4	12.4	4.6	4.6	4.7	0.5	31.3
	既婚 (n=1,426)	19.1	17.7	17.0	17.8	13.4	10.7	11.9	9.5	4.7	3.8	4.1	0.8	28.4	
	離死別 (n=229)	22.3	12.2	19.7	16.6	12.2	10.5	7.9	12.7	10.0	4.8	4.8	0.0	26.6	

■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【全員】子育てしやすい社会に向けて国や自治体の制度・支援①

国や自治体に求める制度の自由回答では、教育費や医療費、給食費の無償化、手当の増額、賃金の上昇等、金銭面での支援や改善を求める回答が多かった。

Q. あなたは、どのような国や自治体の制度や支援があれば、今よりも子育てしやすい社会になると思いますか。ご自身のお考えを、自由にお書きください。

▼経済的・金銭的側面

年代	職業	未婚	回答
20代	お勤め(派遣社員・パート・アルバイト)	既婚(事実婚含む)・子どもあり	大学まで教育費を無償化、18歳まで医療費の無償化など、子どもにかかる費用を軽減してほしい。
30代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもあり	幼稚園から大学まで、原則として学費、給食費、医療費の無償化。
30代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもなし	子供手当など子供にかかわる支援の所得制限の全廃止。
40代	お勤め(派遣社員・パート・アルバイト)	既婚(事実婚含む)・子どもあり	その場限りの給付金支援などではなく、低所得でも高所得の家庭でも関係なく、優秀で学ぶ意欲が高ければ、金銭面の問題なく望むレベルの高等教育を受けられるようにすべきだと思う。
40代	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	既婚(事実婚含む)・子どもあり	子供手当の増額。
40代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもなし	賃金を上げる。
50代	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	離死別・子どもなし	正社員比率の向上、適正な賃金、児童手当の所得制限の額を上げる。

【全員】子育てしやすい社会に向けて国や自治体の制度・支援②

金銭面以外では、保育・学童の拡充、地域や社会全体で育てる意識、女性が子育て中も働き続けられる仕組み、男性も女性並みに子育てに参画すること等、子育ての負担の分散を求める回答があった。

Q. あなたは、どのような国や自治体の制度や支援があれば、今よりも子育てしやすい社会になるとおもいますか。ご自身のお考えを、自由にお書きください。

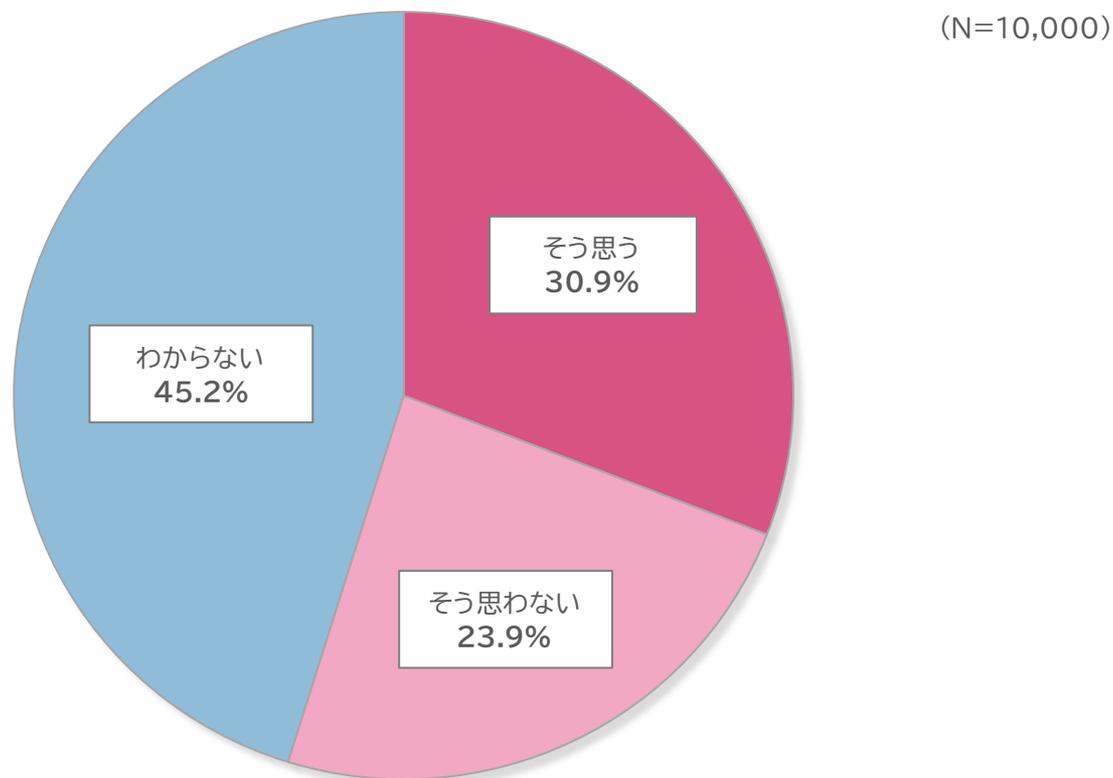
▼育児支援の側面

年代	職業	未婚	回答
20代	無職	未婚・子どもなし	保育施設(保育士の待遇改善含む)の改善を行い、働く世代が安心して子供を預けて働けるような環境を整える。
20代	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	未婚・子どもなし	子育ては女性だけではなく、当たり前にも男性もするという認識を国民全員が持たないと国は変わらないと思う。
30代	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	既婚(事実婚含む)・子どもあり	保育所や学童の拡充もしくはそれに代わる物があれば働く親としては安心出来る。
30代	お勤め(派遣社員・パート・アルバイト)	未婚・子どもなし	家族だけでなく地域や社会全体で子どもを育てていく事。
40代	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	既婚(事実婚含む)・子どもあり	地域全体で子どもを育てるという意識と、夫である男性も育児家事に積極的に参加する姿勢。
40代	お勤め(派遣社員・パート・アルバイト)	未婚・子どもなし	女性が出産しても社会に復帰し、働き続けられる政府のバックアップがしっかりあれば、子育てしやすくなると思います。
50代	自由・自営業	既婚(事実婚含む)・子どもあり	病時の保育サービスの充実時短勤務など、ママトラックに入っても仕事から外されないようにするシステム
60代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもなし	男性も女性と同じように家事・育児をすること。

【全員】 婚外子の権利を認めることが 日本の出生率上昇につながるか①

婚外子の権利を認めることが日本の出生率の上昇につながるかについては、「そう思う」が31%、「そう思わない」が24%となった。「わからない」が最も多く、45%と半数近い。

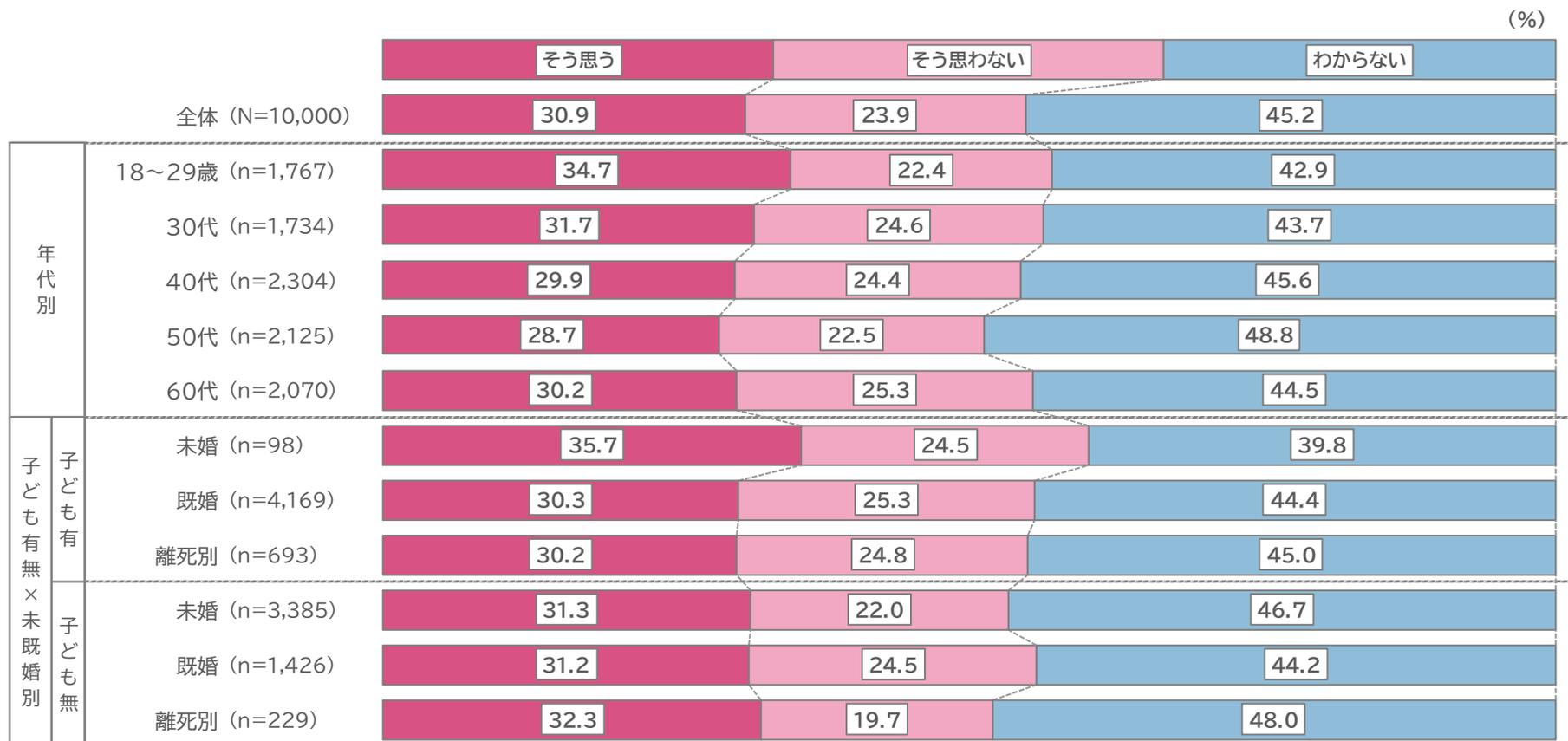
Q.法律上の婚姻関係がない男女間に生まれた子ども(婚外子、非嫡出子)の割合は、フランス、スウェーデンなどが50%を超えているのに対し、日本は2.4%(2020年)です。あなたは、婚外子の権利を認めることで、日本の出生率の上昇につながると思えますか。



【全員】 婚外子の権利を認めることが日本の出生率上昇につながるか②

年代別で見ると、18～29歳では「そう思う」が35%とやや高いが、他の年代も3割前後が「そう思う」と回答しており、大きな違いはみられない。未既婚別で見ると、子ども有層の未婚層で「そう思う」が36%とやや高めとなっている。

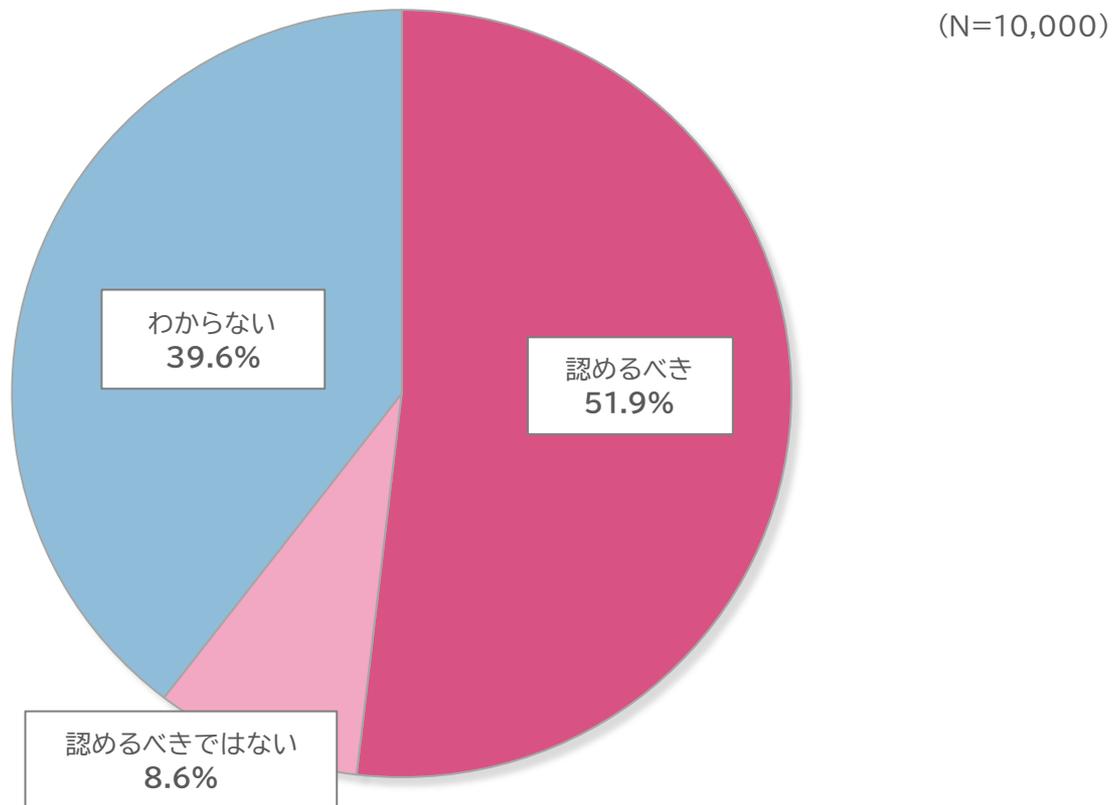
Q.法律上の婚姻関係がない男女間に生まれた子ども(婚外子、非嫡出子)の割合は、フランス、スウェーデンなどが50%を超えているのに対し、日本は2.4%(2020年)です。あなたは、婚外子の権利を認めることで、日本の出生率の上昇につながると感じますか。



【全員】 婚外子・非嫡出子の権利を認めるべきか①

婚外子、非嫡出子の権利については、半数以上が「認めるべき」と回答している。しかし「わからない」も多く、4割を占める。

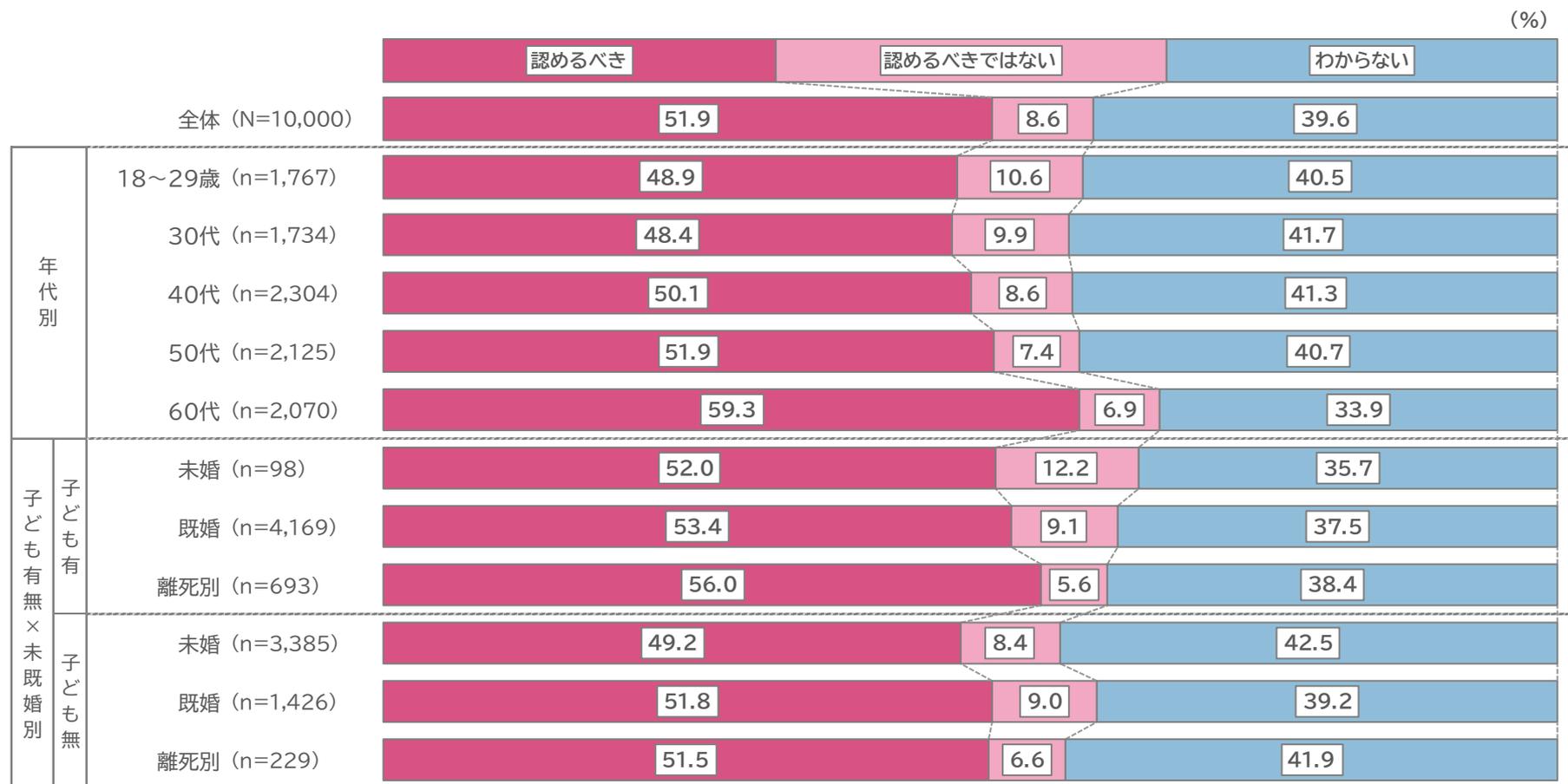
Q.あなたは、法律上の婚姻関係がない男女間に生まれた子ども(婚外子、非嫡出子)の権利をもっと認めるべきだと思いますか。



【全員】 婚外子・非嫡出子の権利を認めるべきか②

年代別でみると、60代で「認めるべき」が59%と約6割を占める。「認めるべきではない」は若年齢層ほど高めとなっている。

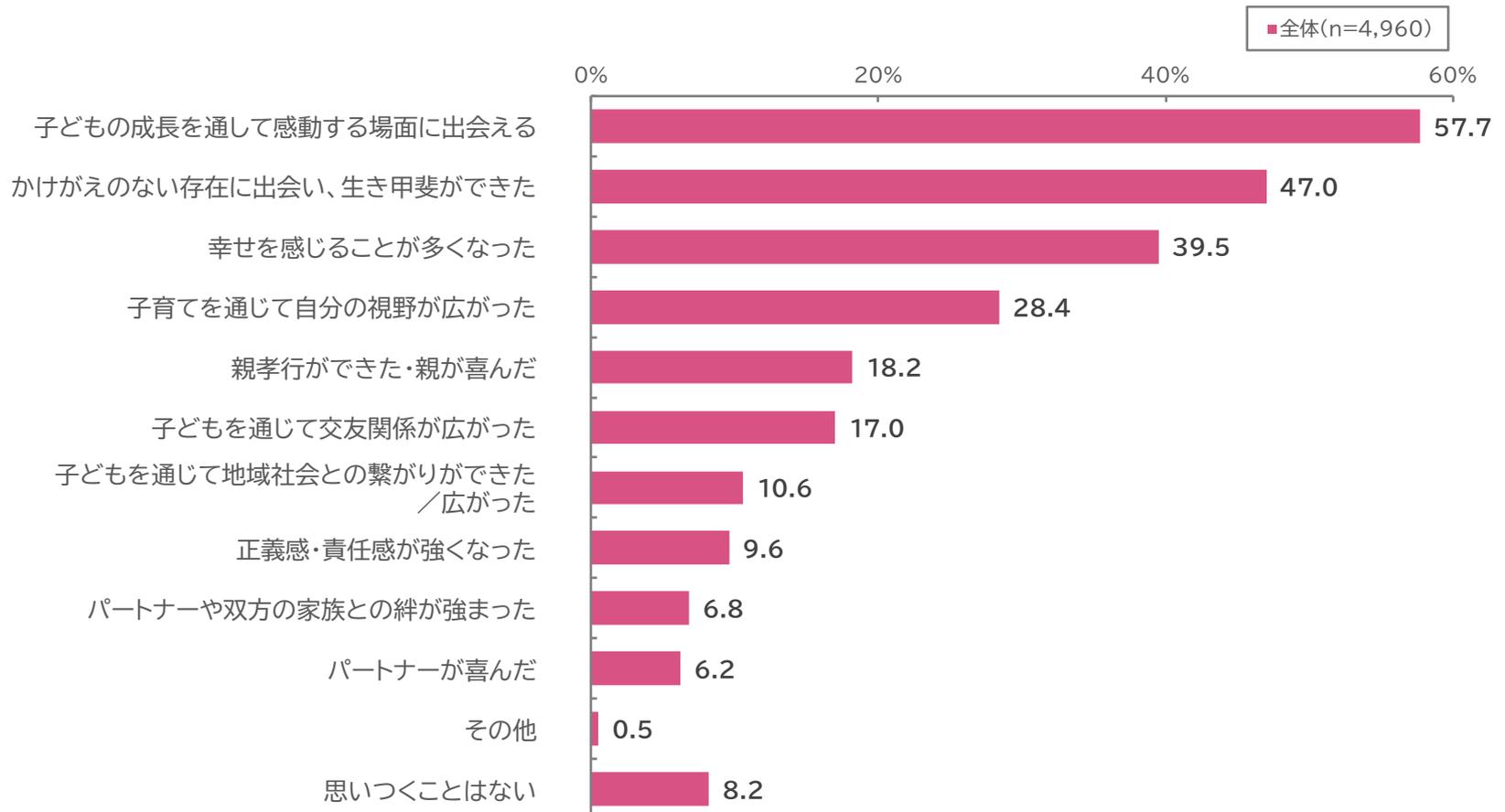
Q.あなたは、法律上の婚姻関係がない男女間に生まれた子ども(婚外子、非嫡出子)の権利をもっと認めるべきだと思いますか。



【子どもがいる方】子どもがいて良かったと思うこと①

子どもがいて良かったと思うことをみると、「子どもの成長を通して感動する場面に出会える」(58%)が最多。このほか、「かけがえのない存在に出会い、生き甲斐ができた」(47%)、「幸せを感じるようになった」(40%)、「子育てを通して自分の視野が広がった」(28%)が上位にあげられている。

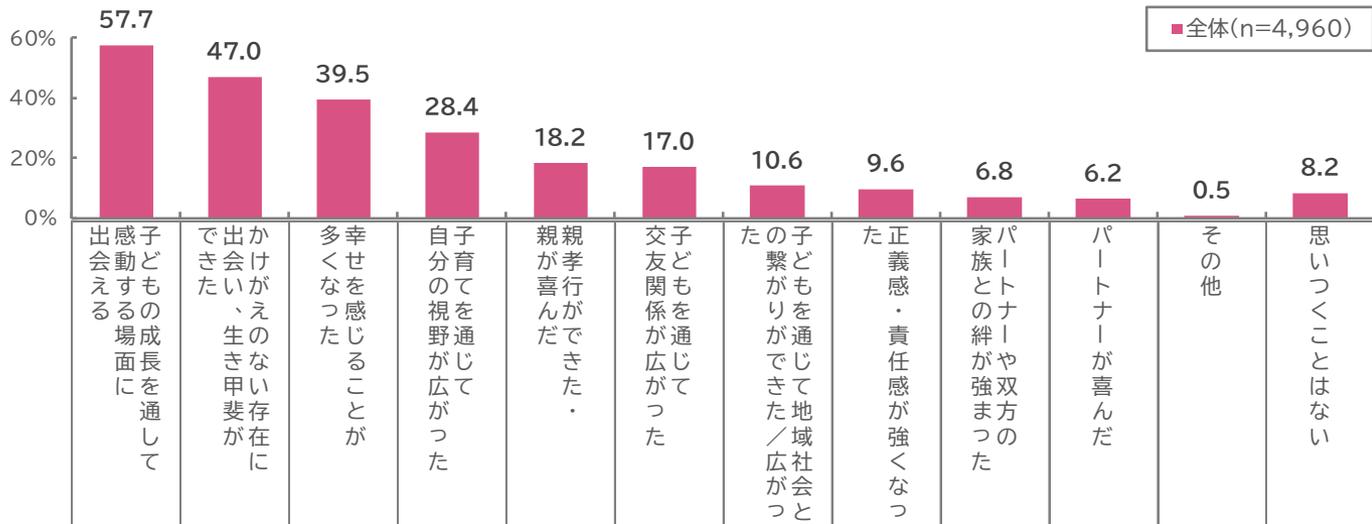
Q.子どもがいて良かったなと思うこと・思ったことは何ですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



【子どもがいる方】子どもがいて良かったと思うこと②

「子どもの成長を通して感動する場面に出会える」は高年齢層ほど高く、60代では6割を超える。また「子育てを通じて自分の視野が広がった」も高年齢層ほど高くなる傾向がみられる。一方「幸せを感じるようになった」は30代以下で特に高く、18～29歳では最多となっている。

Q.子どもがいて良かったなと思うこと・思ったことは何ですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



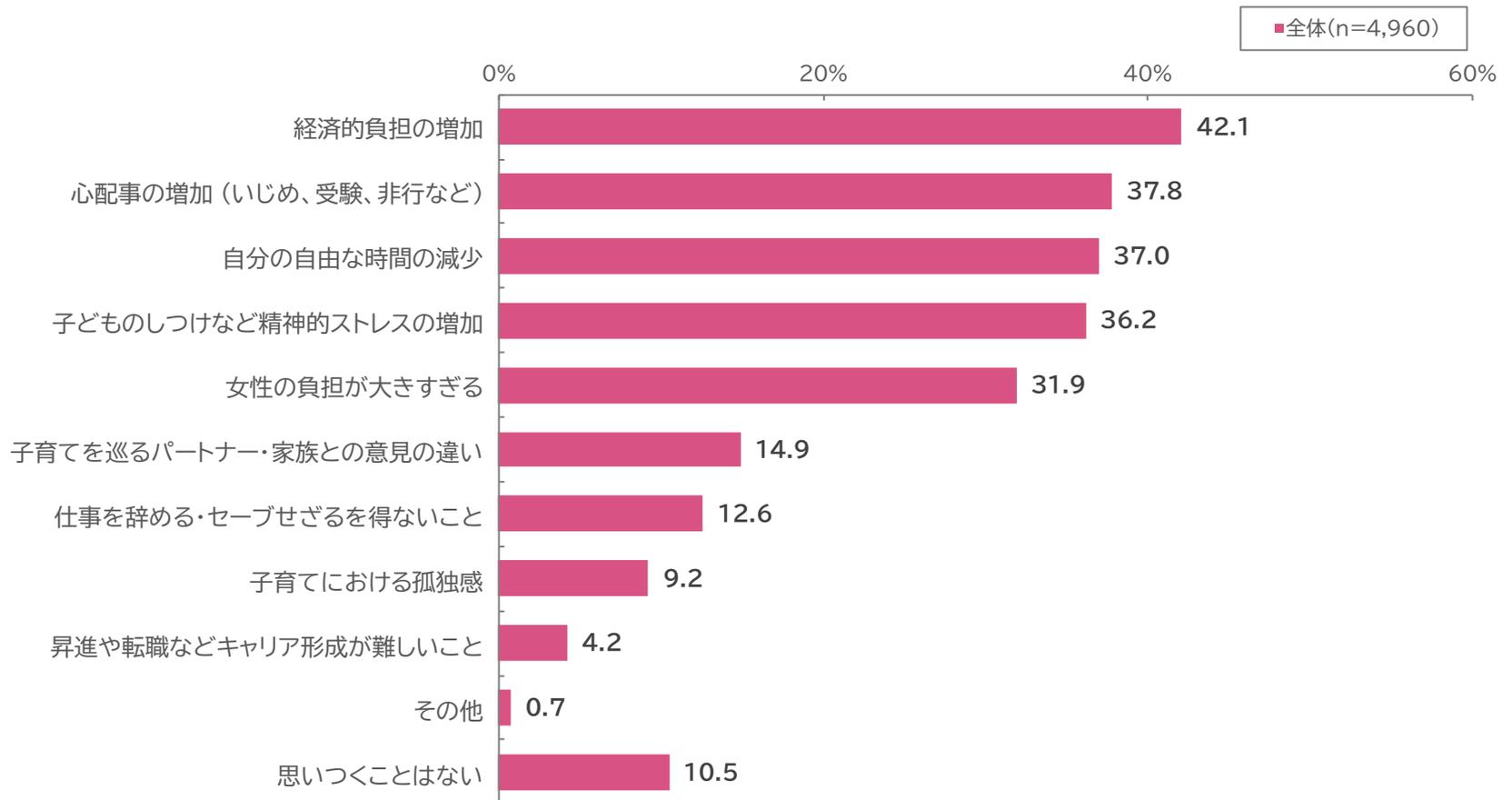
		全体 (n=4,960)	18～29歳 (n=325)	30代 (n=733)	40代 (n=1,156)	50代 (n=1,207)	60代 (n=1,539)	未婚 (n=98)	既婚 (n=4,169)	離婚別 (n=693)
出会う	感動する	57.7	46.2	51.7	55.3	59.7	63.1	41.8	58.7	53.7
かけがえのない存在に出会えた		47.0	45.8	47.1	46.6	47.5	47.0	35.7	47.0	48.3
幸せを感じるようになった		39.5	48.0	44.5	37.4	35.8	39.8	30.6	40.4	35.1
子育てを通じて視野が広がった		28.4	19.1	24.3	27.6	28.9	32.4	17.3	28.7	28.0
親孝行ができた		18.2	21.8	23.2	20.0	16.7	14.9	18.4	19.0	13.7
子ども関係が広がった		17.0	6.5	12.0	16.7	20.1	19.5	9.2	17.5	15.4
子どもを通じて地域/社会と繋がりができた		10.6	3.7	6.4	8.7	11.4	14.8	7.1	10.8	9.7
正義感・責任感が強くなった		9.6	11.4	11.1	11.7	8.9	7.3	13.3	9.0	12.1
パートナーや双方の家族との絆が強まった		6.8	12.3	8.3	6.4	5.1	6.4	6.1	7.7	1.4
パートナーが喜んだ		6.2	9.2	11.5	6.2	4.1	4.7	4.1	7.1	1.3
その他		0.5	1.2	0.1	0.2	0.7	0.6	2.0	0.5	0.6
思いつくことはない		8.2	9.8	9.1	9.6	8.9	5.9	21.4	7.1	13.4

■ : 全体より+5ポイント以上 ■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいる方】子育てにおいて大変だと思うこと①

子育てにおいて大変だと思うことをみると、「経済的負担の増加」(42%)が最多。このほか、「心配事の増加」、「自分の自由な時間の減少」、「子どものしつけなど精神的ストレスの増加」、「女性の負担が大きすぎる」が3割を超える。

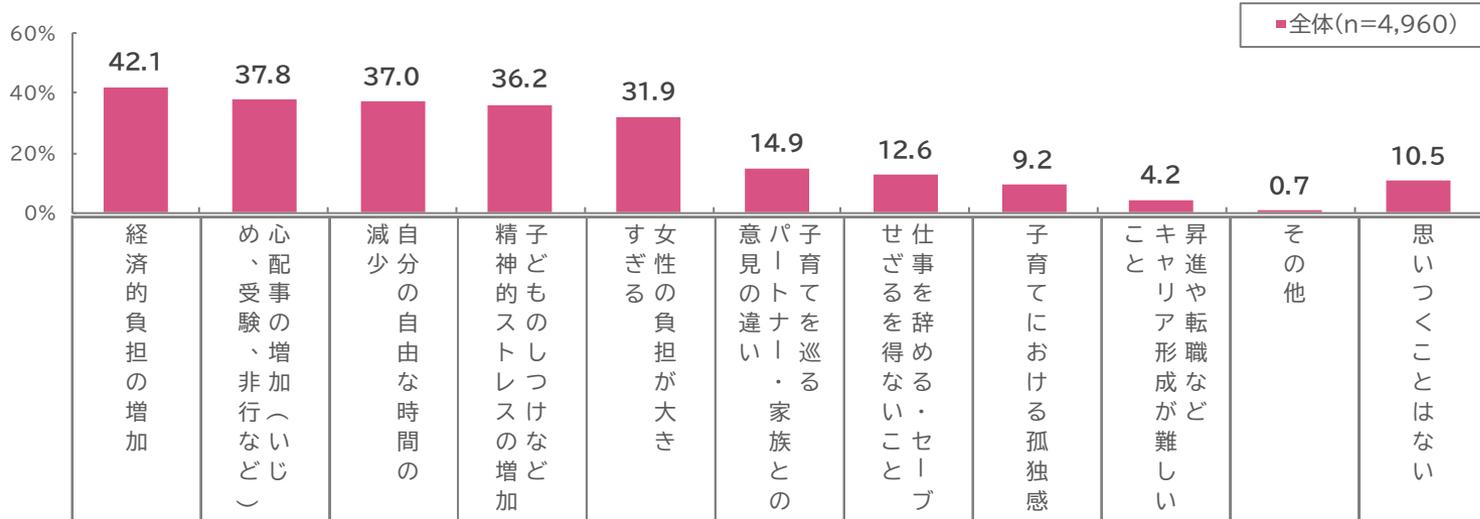
Q.子育てをしていて、想定していたよりも大変だと思う点・思った点は何ですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



【子どもがいる方】子育てにおいて大変だと思うこと②

「自分の自由な時間の減少」は30代以下で、「心配事の増加」は50代以上でそれぞれ高く、ともに44～45%で最多となっている。「経済的負担の増加」は40代で最も高い。18～29歳では「子育てにおける孤独感」や「昇進や転職などキャリア形成が難しいこと」も他の年代に比べて高くなっている。

Q.子育てをしていて、想定していたよりも大変だと思う点・思った点は何ですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



		全体 (n=4,960)	18～29歳 (n=325)	30代 (n=733)	40代 (n=1,156)	50代 (n=1,207)	60代 (n=1,539)	未婚 (n=98)	既婚 (n=4,169)	離死別 (n=693)	(%)
	経済的負担の増加	42.1	39.4	38.3	45.9	43.7	40.3	39.8	41.7	44.6	
	心配事・経験の増加	37.8	13.8	23.1	38.2	44.7	44.2	23.5	37.8	40.0	
	自分の自由な時間の減少	37.0	44.6	43.5	37.1	34.5	34.1	31.6	37.7	33.6	
	子どもの精神的ストレスの増加	36.2	29.8	40.0	36.3	37.1	35.0	27.6	37.1	32.0	
	女性の負担が大きすぎる	31.9	32.9	32.3	31.1	29.3	34.0	26.5	32.5	28.4	
	パートタイム・家族との違い	14.9	16.6	13.0	16.3	15.0	14.2	7.1	15.4	12.7	
	仕事を辞めたい・セーブ	12.6	13.8	16.8	14.8	10.9	10.0	13.3	12.9	10.4	
	子育てにおける孤独感	9.2	19.1	12.3	9.1	7.5	7.1	7.1	9.6	7.1	
	キャリア形成が難しい	4.2	10.5	7.0	4.5	2.8	2.3	6.1	4.2	3.8	
	その他	0.7	1.2	0.7	1.0	1.0	0.3	0.0	0.8	0.7	
	思いつくことはない	10.5	10.8	10.9	9.0	10.2	11.5	25.5	9.4	14.9	

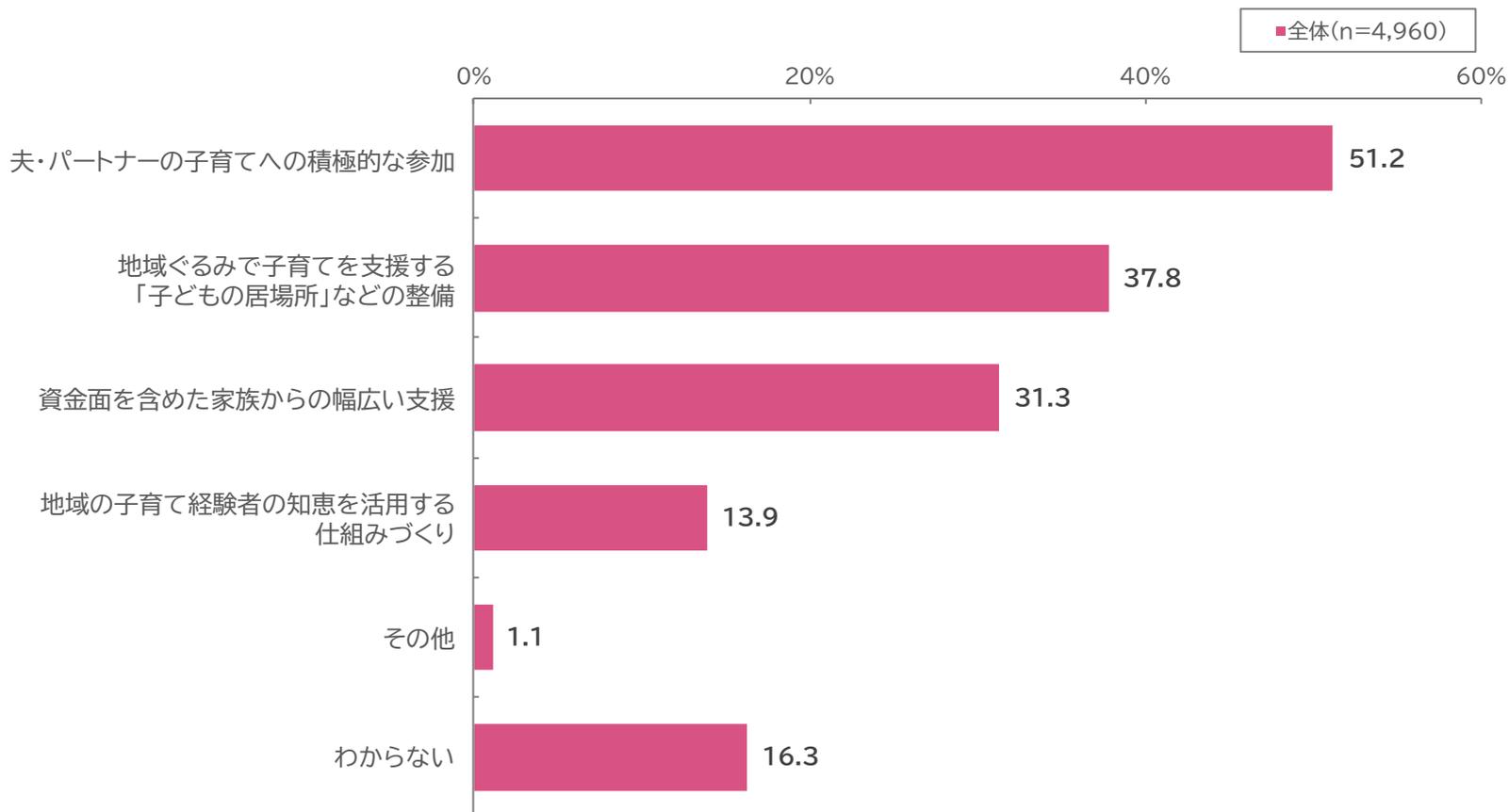
■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいる方】 家族・地域コミュニティに求める子育ての役割①

家族や地域コミュニティに求めるものとしては、「夫・パートナーの子育てへの積極的な参加」(51%)が5割を超え、最多。次いで「地域ぐるみで子育てを支援する『子どもの居場所』などの整備」(38%)、「資金面を含めた家族からの幅広い支援」(31%)と続く。

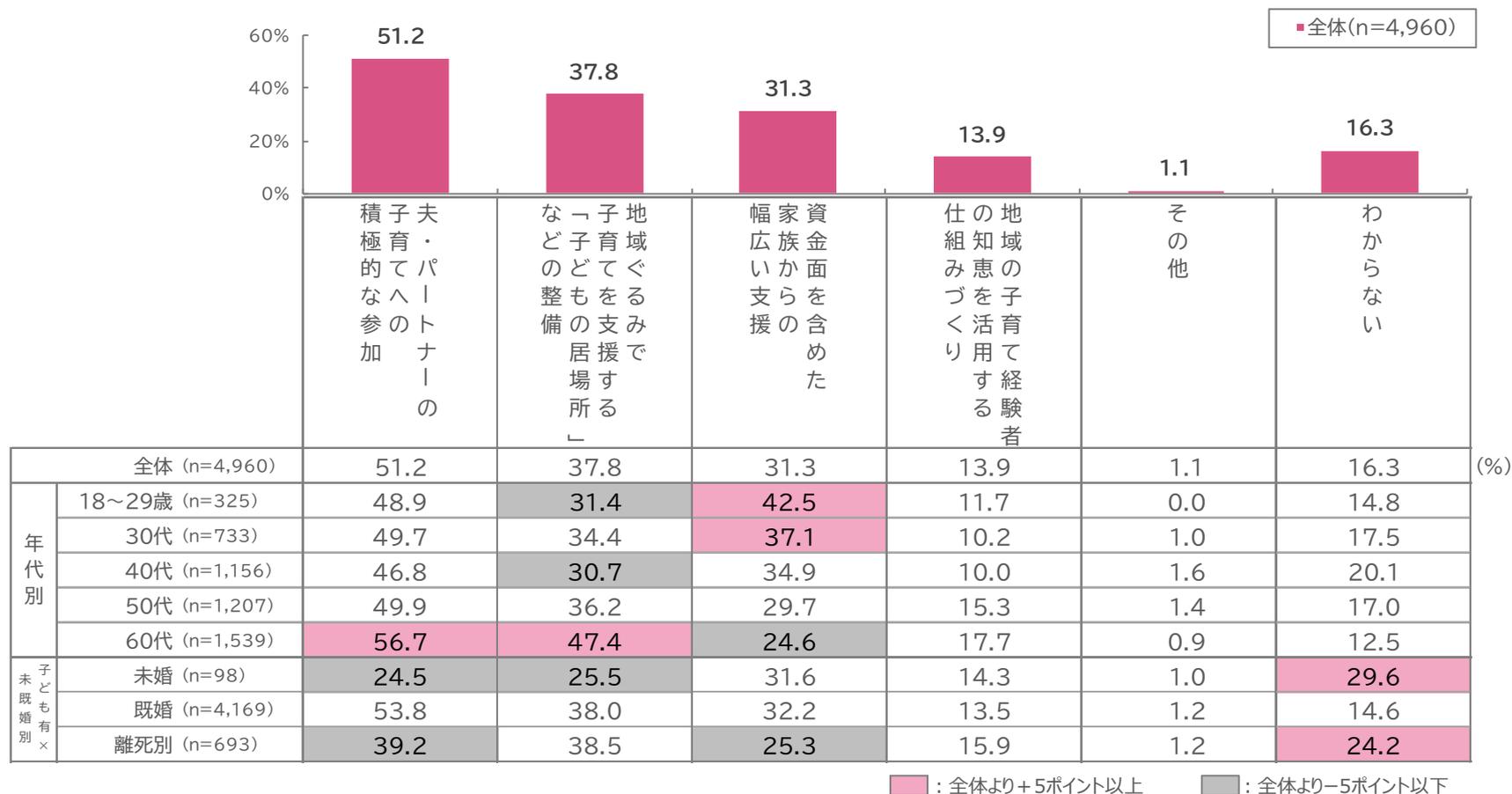
Q.あなたは、子育てをする上で家族や地域コミュニティに何を求めますか。お気持ちに近いものを2つまでお選びください。



【子どもがいる方】 家族・地域コミュニティに求める子育ての役割②

年代別で見ると、「夫・パートナーの子育てへの積極的な参加」が最多で、60代では57%と6割近い。60代では「地域ぐるみで子育てを支援する『子どもの居場所』などの整備」も47%と高いが、18～29歳や40代では3割程度にとどまる。30代以下では「資金面を含めた家族からの幅広い支援」が4割前後と高い。

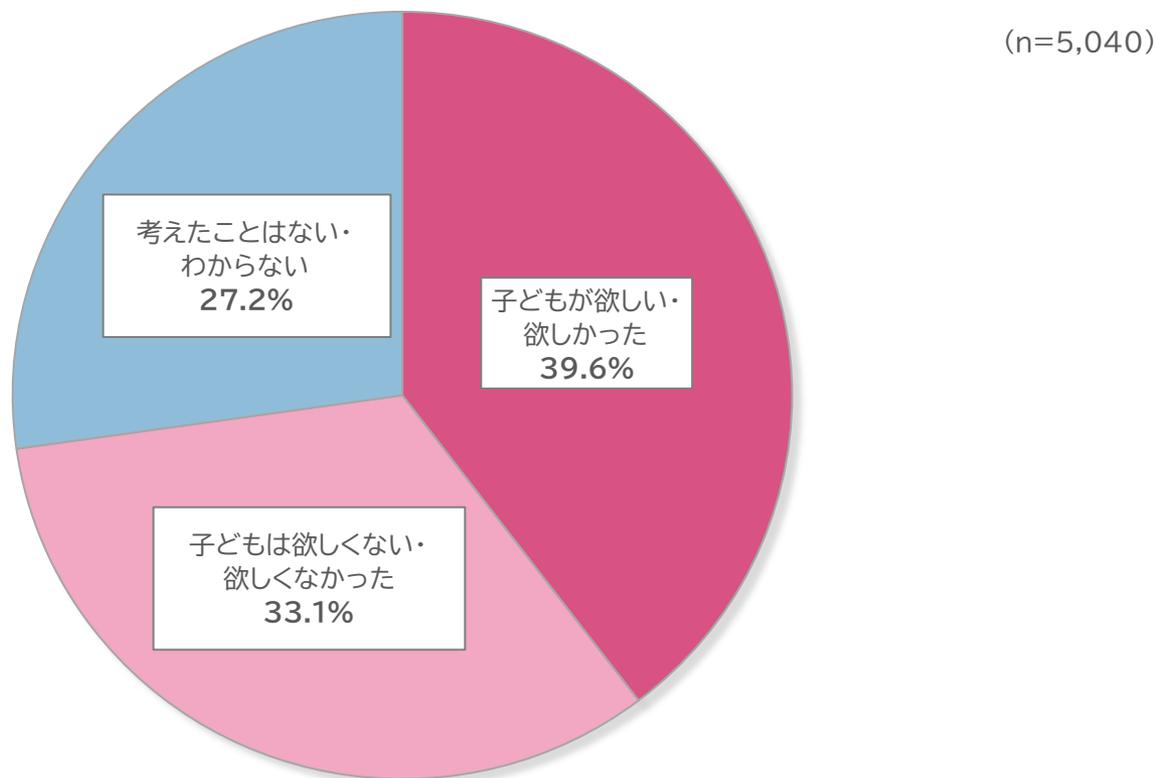
Q.あなたは、子育てをする上で家族や地域コミュニティに何を求めますか。お気持ちに近いものを2つまでお選びください。



【子どもがいない方】子どもを望むかどうか①

現在子どもがいない人を対象に、子どもを望むか聞いたところ、「子どもが欲しい・欲しかった」(40%)が最多だが、「子どもは欲しくない・欲しくなかった」(33%)も3割以上を占める。「考えたことはない・わからない」(27%)も3割近くを占め、回答は分散している。

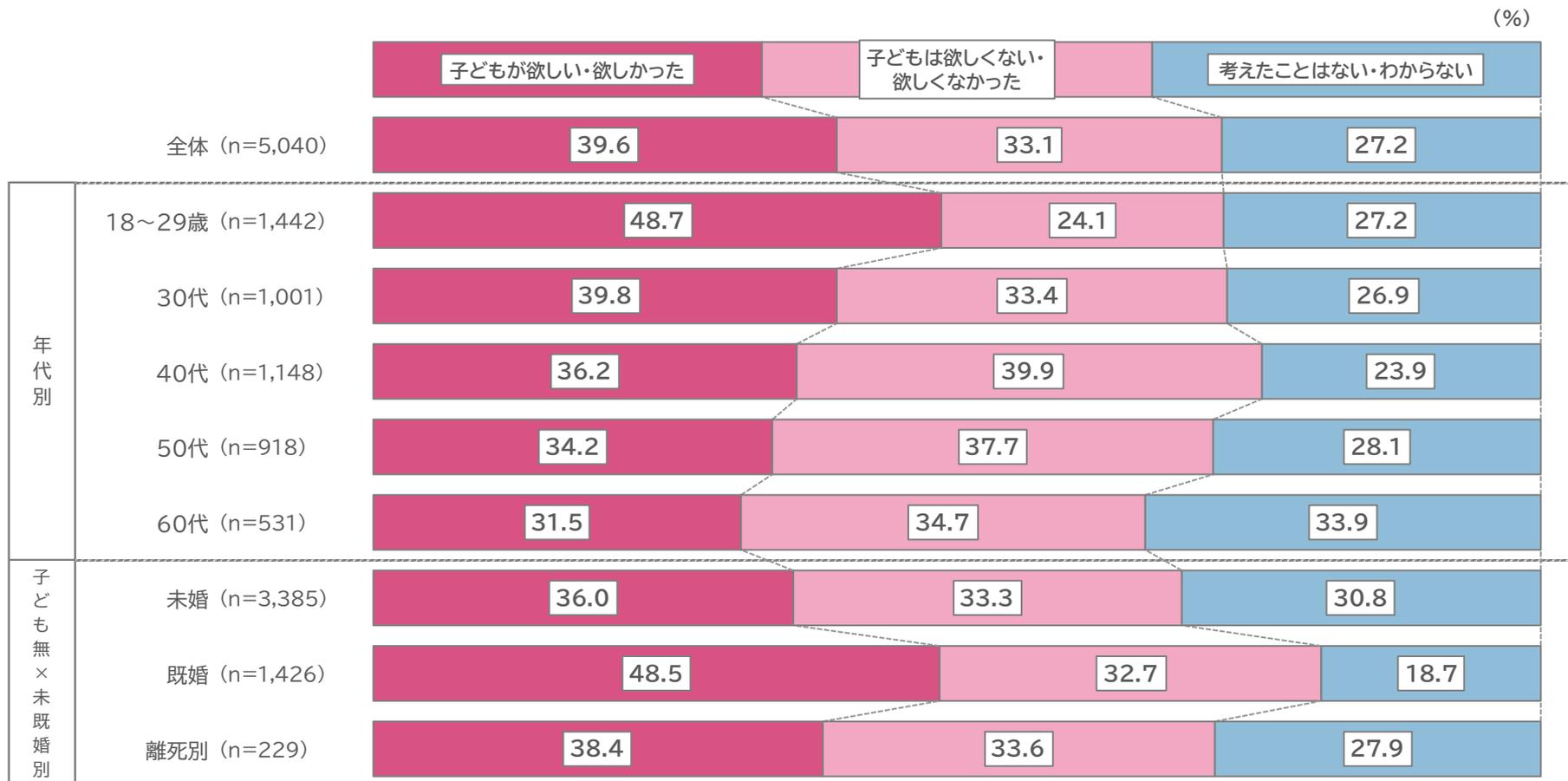
Q.あなたは、将来的に子どもが欲しいと思いますか。または、子どもが欲しいと思ったことはありますか。



【子どもがいない方】子どもを望むかどうか②

年代別でみると、若年齢層ほど「子どもが欲しい・欲しかった」が高く、18～29歳では5割近い。40代以上になると、「子どもは欲しくない・欲しくなかった」が多くなり、「子どもが欲しい・欲しかった」割合を上回る。未既婚別でみると、既婚層では「子どもが欲しい・欲しかった」が約5割を占める。

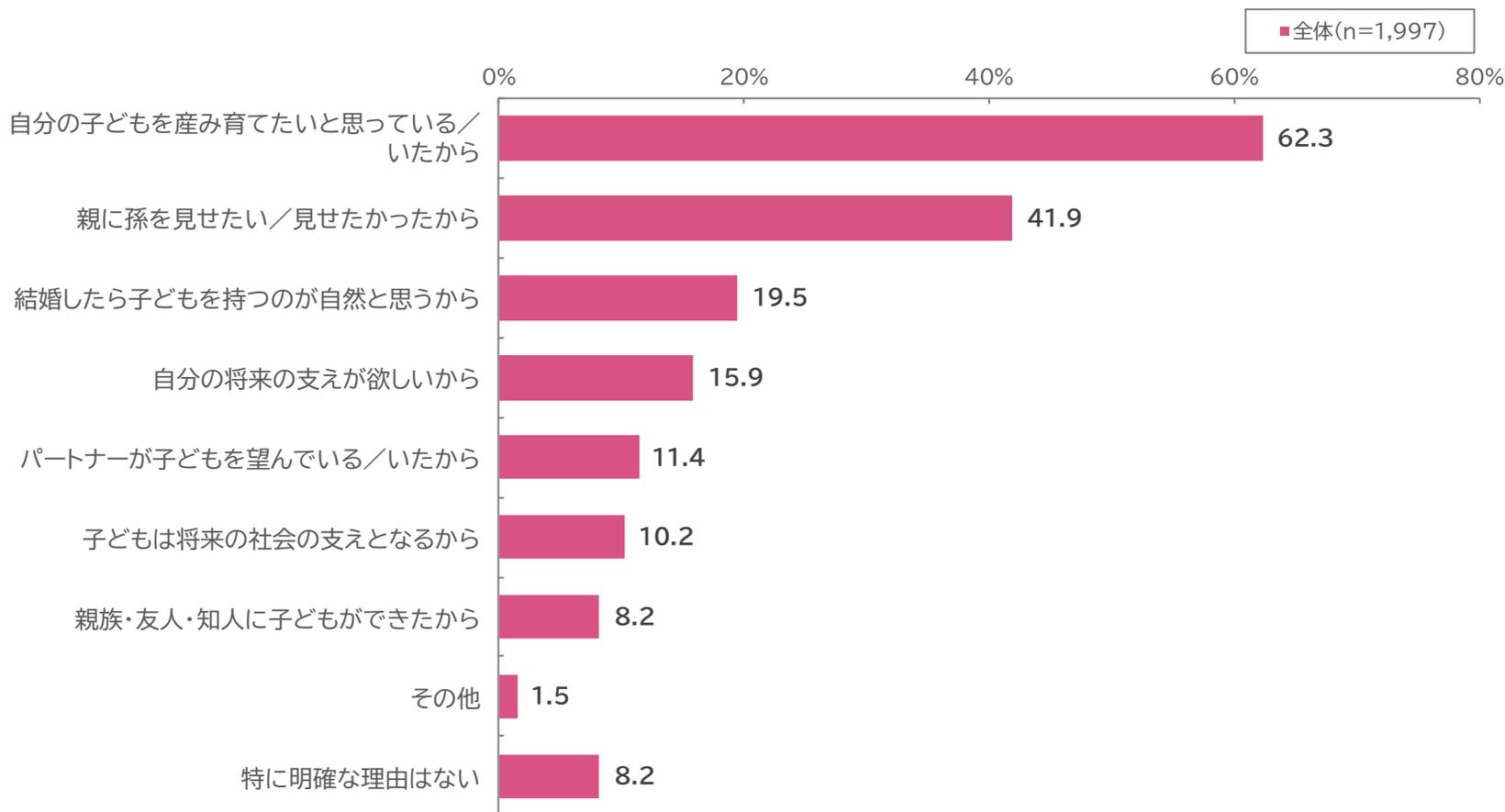
Q.あなたは、将来的に子どもが欲しいと思いますか。または、子どもが欲しいと思ったことはありますか。



【子どもがいない方】子どもを望む理由①

子どもを望む理由としては、「自分の子どもを産み育てたいと思っている／いたから」が62%と特に多く、次いで「親に孫を見せたい／見せたかったから」(42%)も4割を超える。その他の理由は2割以下となっている。

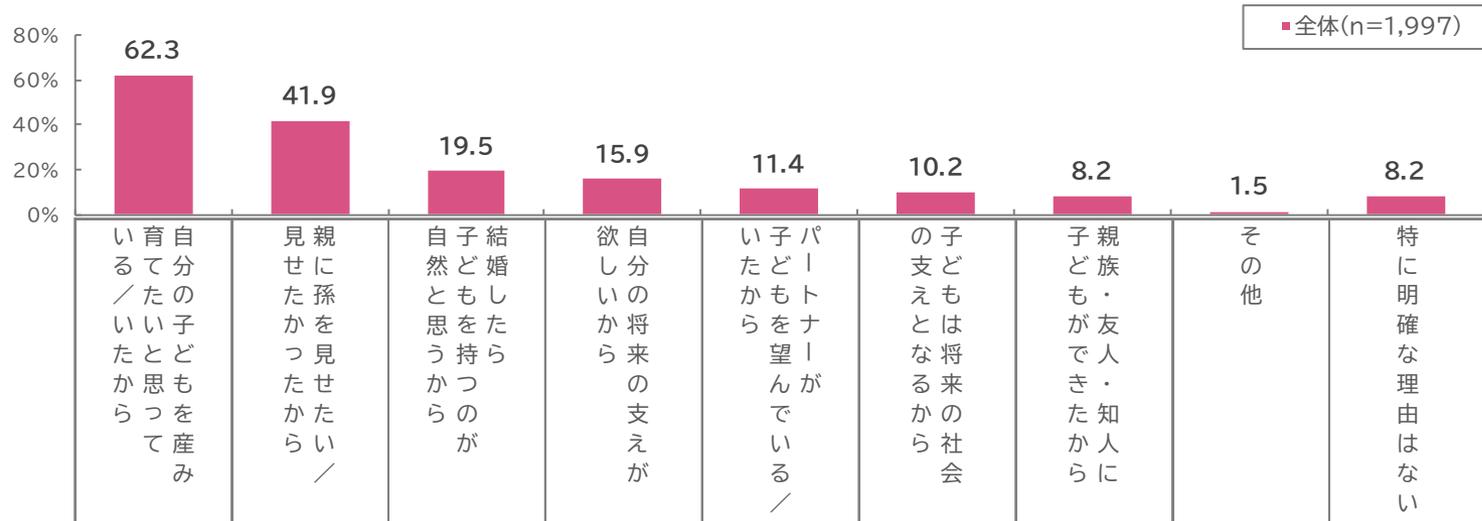
Q.あなたが子どもを望む(望んだ)理由はなんですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



【子どもがない方】子どもを望む理由②

年代別でも大きな違いはみられないが、60代では「結婚したら子どもを持つのが自然と思うから」が他の年代より高く、3割近い。未既婚別で見ると、離死別層では「自分の子どもを産み育てたいと思っている／いたから」が7割以上と、特に高い。既婚層では「パートナーが子どもを望んでいる／いたから」が他層より高く、2割を超える。

Q.あなたが子どもを望む(望んだ)理由はなんですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



		全体 (n=1,997)	62.3	41.9	19.5	15.9	11.4	10.2	8.2	1.5	8.2	(%)
年代別	18~29歳 (n=702)	61.8	41.5	19.1	14.0	14.1	9.5	10.0	1.0	9.4		
	30代 (n=398)	59.5	46.7	18.6	17.6	12.1	8.5	11.1	1.8	5.3		
	40代 (n=416)	63.0	41.8	18.0	16.8	10.8	11.8	7.9	1.4	7.7		
	50代 (n=314)	64.0	39.2	19.1	15.9	7.3	8.9	3.8	2.5	10.5		
	60代 (n=167)	66.5	37.7	28.1	17.4	7.2	15.6	3.0	1.2	6.6		
未既婚別	未婚 (n=1,217)	59.1	41.9	16.8	17.7	6.3	11.9	9.5	1.7	9.9		
	既婚 (n=692)	66.5	43.4	23.4	12.6	21.1	7.4	6.2	1.2	5.9		
	離死別 (n=88)	75.0	30.7	26.1	17.0	4.5	9.1	5.7	1.1	2.3		

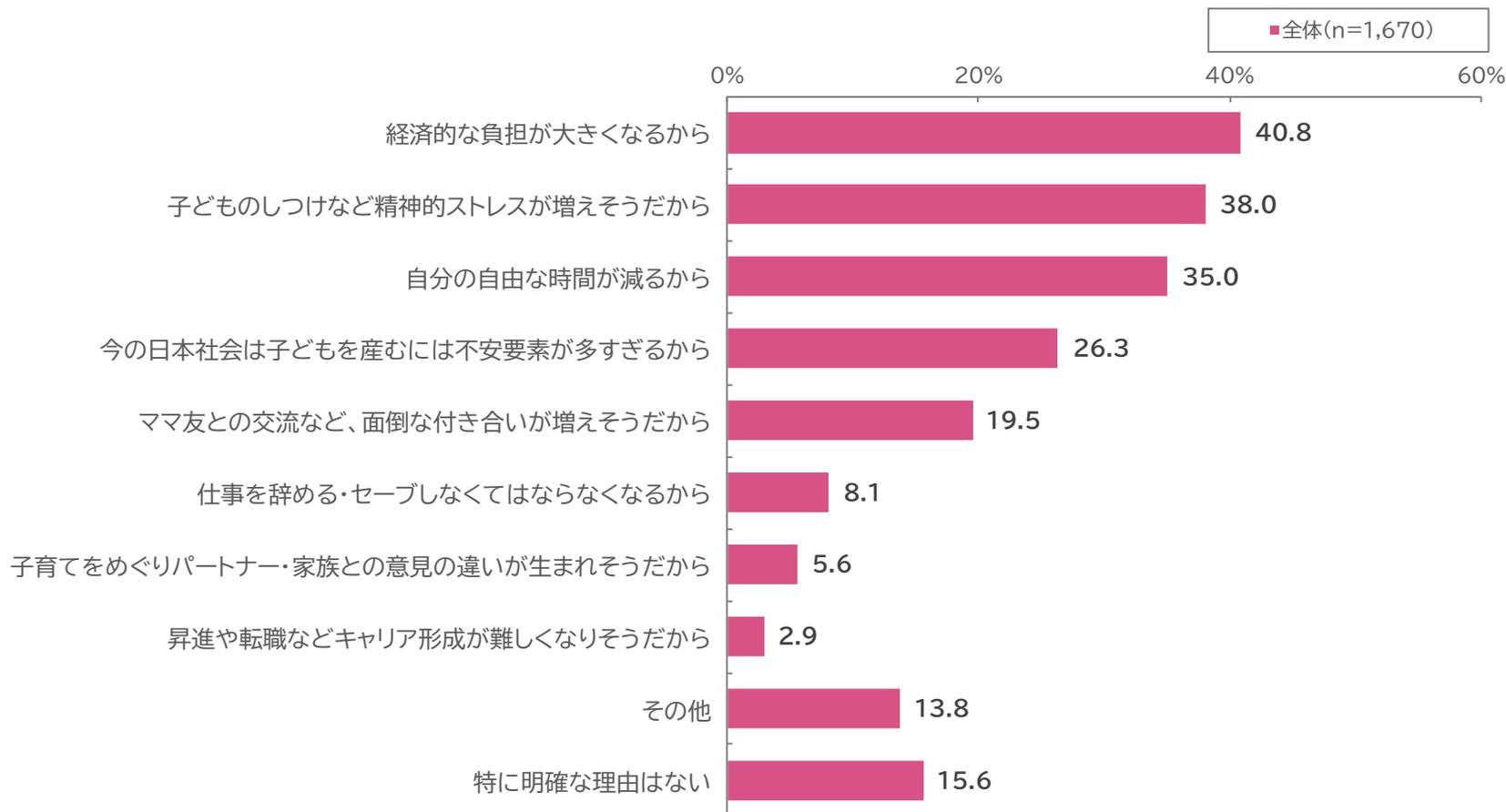
■ : 全体より+5ポイント以上

■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいない方】子どもを望まない理由①

子どもを望まない理由としては「経済的な負担が大きくなるから」(41%)、「子どものしつけなど精神的ストレスが増えそうだから」(38%)、「自分の自由な時間が減るから」(35%)が上位に並ぶ。

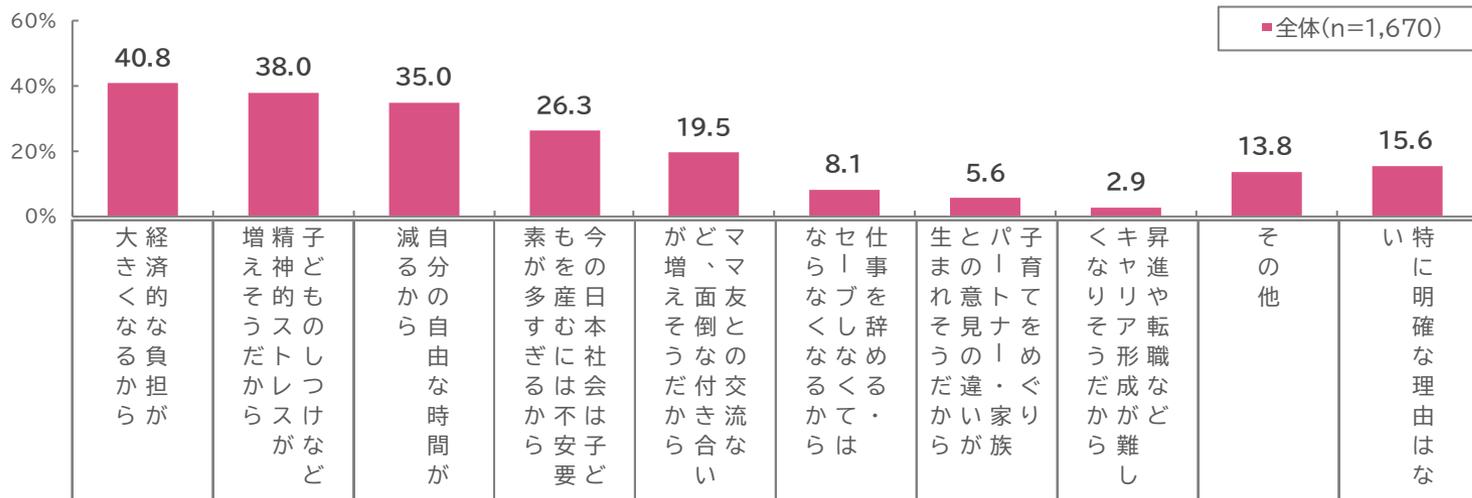
Q.あなたが子どもを欲しくない(欲しくなかった)理由は何ですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



【子どもがいない方】子どもを望まない理由②

年代別でも上位3項目に変わりはないが、若年齢層ほどスコアが高くなる傾向が顕著。60代では「仕事を辞める・セーブしなくてはならなくなるから」が他の年代より高いのが特徴的で、「特に明確な理由はない」も50代以上では2割を超える。既婚層では「ママ友との交流など、面倒な付き合いが増えそうだから」が25%と高い。

Q.あなたが子どもを欲しくない(欲しくなかった)理由は何ですか。お気持ちに近いものを3つまでお選びください。



		全体 (n=1,670)	40.8	38.0	35.0	26.3	19.5	8.1	5.6	2.9	13.8	15.6	(%)
年代別	18~29歳 (n=348)	49.1	44.0	44.8	30.2	14.9	6.0	4.9	4.0	12.6	9.5		
	30代 (n=334)	46.1	43.7	38.3	29.6	22.5	6.6	5.4	3.3	15.0	12.3		
	40代 (n=458)	41.0	37.3	36.0	24.7	22.5	7.0	5.5	1.5	15.7	14.0		
	50代 (n=346)	32.9	31.2	26.6	24.3	20.5	8.7	6.4	2.0	10.7	23.1		
	60代 (n=184)	29.3	30.4	23.4	21.2	13.0	16.3	6.0	4.9	14.7	23.4		
未既婚別	未婚 (n=1,126)	39.5	39.9	37.9	25.8	17.3	8.1	3.7	2.8	13.9	16.5		
	既婚 (n=467)	44.3	35.5	27.6	28.1	25.3	7.5	9.4	3.2	13.9	12.8		
	離死別 (n=77)	37.7	24.7	36.4	24.7	15.6	11.7	9.1	2.6	11.7	19.5		

■ : 全体より+5ポイント以上 ■ : 全体より-5ポイント以下

【子どもがいない方】子どもを望まない理由③ (「その他」の自由回答)

前ページ以外の子どもを望まない理由は、「子どもが嫌い」「ちゃんと育てられる自信がない」「自分に似た子どもを産みたくない」といった回答があった。

Q. あなたが子どもを欲しくない(欲しくなかった)理由は何ですか。 - 「その他」の回答抜粋

▼子どもが嫌い

年代	職業	未既婚	回答
20代	お勤め(経営者・正社員・正職員・嘱託職員など)	未婚・子どもなし	子供が嫌いだから。
60代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもなし	自分が子供の時から子どもが嫌いだったから。

▼育てられる自信がない

年代	職業	未既婚	回答
20代	学生	未婚・子どもなし	育てられる気がしない。
40代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもなし	心身があまり丈夫でないため気力や自信がない。

▼自分に似た子どもを産みたくない

年代	職業	未既婚	回答
30代	お勤め(派遣社員・パート・アルバイト)	未婚・子どもなし	自分に似た人間を産みたくない。
40代	主婦	既婚(事実婚含む)・子どもなし	自分の悩んでいる体質を遺伝させたくなかった。